



千葉大学医学部同窓会報 第171号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/



# 年頭の挨拶

みのほな同窓会長 済陽高穂 (昭45)



明けましてお目出度うございます。

みなさま健やかに新たな年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

伊藤晴夫前会長には長年にわたりみのほな同窓会のためにご尽力いただき同窓会を強引に牽引してまとめられ、創立135周年事業である「新みのほな同窓会館」の完成、記念誌の発刊と素晴らしい実績を挙げられ敬服いたしております。

本当にご苦労さまでした。そして次なる課題を未熟者の小生に託されいささか逡巡もありませんが、みのほな会員諸兄姉のご協力を戴きながら、責を全うできればと考えております。

年頭にあたり、みのほな同窓会の活性化、発展への展望を述べてみたいと思います。同窓会のさらなる記念事業として、千葉大学基

礎医学教室ならびに臨床部門での、これまでの歴史的業績を整理して一堂に展示するべく「メモリアルウォール」設置を計画しております。これには多少とも財政的負担を伴いますので、大変心苦しいのであります。が、みのほな各支部の意向をお聞きしながら同窓生諸氏への浄財のお願いを致すことになるやと思われ

ます。また学生会員も含む若手・中堅同窓生の積極的参入を目指して、亥鼻祭への協力や各種研究会などでの若手優秀研究者の表彰、新卒業生祝賀に加えて卒業50年会員顕彰などを計画しております。その他旧病院本館(現医学部)・遺構保存、医学部が推進する「未来医療治療学・人材養成事業」や21世紀における「難病」などに対する「治療学推進」などへの側面的協力が挙げられます。

そしてみのほな各支部間連携強化・連合みのほな会開催などの計画、医学部ならびに各種医学会、医療界で活動する同窓生への支

援なども大きな眼目であり

ます。これはすでに10年余りに

遡る、小泉医療構造改革や国立大学独立法人化の余波・影響による、医学部運営上の課題、大多数のみのほな同窓会員が生業として

いる医療人への社会的、政治・経済的諸問題などを幅広く討議・懇談する必要があります。また文部科学省や厚生労働省といえども医学教育問題や医療レベルや質など

につき米国王導型国際基準の影響を受けやすく、特に日本の医学教育制度では受動型授業で臨床実習時間の短いことが指摘されていま

す。これらの問題点には医学部が的確に対応されるわけですが、医学部学生支援や国際的基準に準拠した教育手法などへの側面的支援の必要性も考慮されるため、

敢えて支部長レベルの懇談の必要性を感じたものです。医療と健康問題は、食糧・

栄養問題同様、今後世界的視点があります必要とされるように思われ、TPPの影響も懸念される中、わが

千葉大学医学部も遅れをとることなく、的確な教育と医療レベルを保つていただくよう希望するものです。

医療の要件を、米国外科

医会がおおよそ100年前の1917年に「安全、有効、患者中心、効率的、適時的、公平」の6項目に定めております。

わがみのほな同窓会員が、21世紀での進歩したかつ患者中心で、患者の期待に応え「世界がスタンダード」国際的に評価される医学・医療を推進し、また若き日に

の何物にも代えがたい友情を、終世抱き続ける仲間を集まりであることを願っております。

本年のみなさまのご健勝ならびにますますのご発展を祈念致しております

本年もよろしくお願い申し上げます

本年のみなさまのご健勝ならびにますますのご発展を祈念致しております

本年もよろしくお願い申し上げます

本年のみなさまのご健勝ならびにますますのご発展を祈念致しております

本年もよろしくお願い申し上げます

本年のみなさまのご健勝ならびにますますのご発展を祈念致しております

本年もよろしくお願い申し上げます

本年のみなさまのご健勝ならびにますますのご発展を祈念致しております

本年もよろしくお願い申し上げます

## 祝 褒章・叙勲

平成27年 春の褒章

藍綬褒章

長尾 啓一 (昭47)

平成27年 秋の叙勲

旭日双光章

吉井 功 (昭34)

平成27年 秋の褒章

藍綬褒章

石川 広己 (昭55)

## 最終講義

のご案内

### 脳神経外科学

佐伯 直勝 教授

日時 平成28年2月9日(火) 午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール(大講堂)

演題 脳神経外科学の進歩―その軌跡と展望―

### 整形外科

高橋 和久 教授

日時 平成28年2月16日(火) 午後3時

場所 みのほな記念講堂

演題 千葉大学整形外科教室―学問の系譜―

### 形成外科学

佐藤 兼重 教授

日時 平成28年2月18日(木) 午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール(大講堂)

演題 頭蓋顔面変形の外科手術に挑んだ30年―形態異常に心を病む成人から―

### 消化器・腎臓内科学

横須賀 收 教授

日時 平成28年3月3日(木) 午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール(大講堂)

演題 肝疾患診療のこれまで―これから―

### 臓器制御外科学

宮崎 勝 教授

日時 平成28年3月10日(木) 午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール(大講堂)

演題 肝胆臓外科を歩んだ外科医を振り返って―Surgeon's Professionalismの追求―

## 紙面紹介

年頭の挨拶 2

就任挨拶 5

叙勲感想 1

人事異動 2

各地のみのほな会 4

クラス会 7

研究会 12

研修プログラム 13

学生教育 14

編集後記 16

## 紙面紹介

学内情報 22

課外活動団体 23

地区のみのほな会 24

随想 25

会員から 26

著書紹介 27

雑文雑談 28

オンライン会報 30

編集後記 31

学生教育 16

# 会長就任挨拶

ゐのはな同窓会長

清 陽 高 穂 (昭45)

この度伊藤晴夫前会長の後を受け、ゐのはな同窓会長の役を仰せつかりました昭和45年卒業の清陽高穂です。浅学非才の未熟者であります。どうぞよろしくお願い致します。

100年余の歴史と伝統を有し、名尾良憲先生、井出源四郎先生、長澤仁先生、渡辺武先生、伊藤晴夫先生などの歴代会長方が営々として努力され、築いてこられたゐのはな同窓会であり、身の引き締まる思いであります。また、新同窓会館建設など確固たる業績を挙げてこられたことに衷心より敬服し、感謝しております。

千葉大学医学部は、日本の医学・医療のリーダーとして、また医療界における有為の人材の育成機関として、その担う役割は極めて大きいと言えます。わが医学部は歴史的に優秀な研究者や熱意ある臨床医を数多く輩出してきました。困難な医学研究や難病の診断や治療に目覚ましい実績を挙げ、世界的な研究を推進して世界をリードしたり、

基本的な手術法や早期がん診断法を開発したりして国際的評価をうけた先輩諸氏など枚挙にいとまがないほどです。『世界がスタンダード』これらの方々の努力で培われた伝統を烏有に帰することなく、素晴らしい業績が示されるよう願うところです。

現在の医学・医療の進歩の目覚ましさに矧目させられる反面、医療現場でのさまざまな課題が浮き彫りにされております。医療は人が人を癒す、まさに人間的な行為です。『国民(患者)の期待に応える医療、受療者が満足する診療』が具現されるよう望むところです。

医学部基礎教室が臨床部門と手を携えて、医学・医療界に治療学などの成果を齎し、また斯界に貢献する医師の育成をも望むところであり、その目的に向かつてゐのはな同窓会も側面的な支援に努める所存です。

同窓会の目的は、会員親睦の推進ならびに医道の高揚と敷衍にあるわけですが、具体的な同窓会としての事業計画を立案してその達成

をめざすこととなります。同窓会員のための活動推進(各支部間の連携など)などが挙げられます。幸い吉川廣和、鈴木信夫、吉原俊雄の錚々たる先生方が副会長としてご尽力いただくことになりました。山積するゐのはな同窓会の課題を一つ一つ丁寧に分析して、その具体的解決や方向性を見出して、医学部へ貢献できればと考えております。

かつて昭和12年に、6年間の歳月をかけて完成した大学病院(現医学部)は亥鼻台に聳え立ち、東京湾を隔てた横浜からも遠望されたとのことです。ゐのはな同窓生一同、その誇りと矜持とを忘れず、千葉大学医学部が今一度、全国から仰ぎ見られることを願うものです。

『安全、有効、患者中心、効率的、適時的、公平』の6項目は1917年に米国外科医学会が定めた「医療の要件」です。医療者側のみの論理でなく、万人が認められる素晴らしい医学教育と医療が推進されることを望むものです。医療への信頼を取り戻し、千葉医学の存在を世に示すことができるよう望んでおります。皆様方のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

藍綬褒章

# 受章の挨拶

藍綬褒章

藍綬褒章受章のご報告

長 尾 啓 一 (昭47)



平成27年春の褒章にて、多年厚生労働省じん肺診療医会委員を務めてきたことにより、藍綬褒章の栄誉を賜りました。

そのことにより今回の受章の栄を賜った次第です。じん肺は不可逆性職業病で、昔の粉じん作業が後年になりじわじわと健康を害してくるというやっかいなものであり、近年は石綿吸入による遅発性呼吸器悪性腫瘍

も大きな問題となっております。このような被害を繰り返さないためには産業衛生学的見地からの指導がきわめて重要で、私も随所で予防対策・教育、さらには健康管理に携わって参りました。

医学部卒業後、前記の通り、各所で求められるまま融通無碍に仕事をして参りましたが、本年4月からはご縁があり(一財)柏戸記念財団ポートスクエア柏戸クリニックにお世話になっ

## ゐのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二一回(二〇一六年度)ゐのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

### 一、受賞対象者

① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学ゐのはな同窓会に多大の貢献をした者。

### 二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功労賞 (二件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

### 三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一五年十二月一日から二〇一六年一月三十一日までに申請して下さい。

### 四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一六年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、ゐのはな同窓会報に掲載します。

### 五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのはな同窓会事務局  
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。



# 就任挨拶

## 昭和大学医学部

### 整形外科科学講座 教授

#### 豊根 知明 (昭60)



このたび、7月14日付けで、昭和大学医学部整形外科科学講座教授を拜命致しましたので、ご報告申し上げます。昭和大学は、東京都品川区、東急線の旗の台駅から徒歩数分のところにあります。医・歯・薬・保健医療の4学部を揃えた医系総合大学であり、整形外科学講座は3年後には開講90周年を迎える、全国80大学のなかで整形外科としては9番目に開講した歴史と伝統ある教室です。

私は、昭和60年に千葉大学を卒業し、整形外科科学教室に入局しました。動物性機能に興味があったことに加え、全国から患者さんがいらして、とても活気がある教室だったからです。昭和62年6月に故井上駿一教授から「来年は大学院に

進み、高齢者の腰痛の研究をせよ」とご指示いただきましたが、井上教授は残念なことにその2か月後に肝臓がんのため急逝されました。翌年は大学院の募集がなく、私は平成2年に医員として大学に戻り、腰痛の研究をスタートしました。以後25年間、一貫して脊椎疾患の病態解明と治療を自身のライフワークとし、近年は特に「腰曲がりや首下がり」と言われる高齢者の脊柱変形の手術治療に積極的に取り組み、井上教授とかわしたお約束を守っております。

千葉大学では、本当に多くの方々のお世話になってまいりました。守屋秀繁名誉教授は、ここぞという時には必ずメールをくださる。「親父の背中はいつまでもか」と思える師匠です。高橋和久教授は、私の入局時に文部教官になられて以来30年、愛弟子としてご指導くださっています。田中正・前千葉市立青葉病院院長

は、私が平成5年に赴任した救急・外傷のメツカ君津中央病院で12年間にわたり、「手術では妥協せず最善を尽くすこと」を、首から足に至るすべての整形外科疾患について勉強させて下さった真の恩師です。平成17年に守屋教授の一声で赴任しました帝京大学ちば総合医療センターでは、和田佑一病院長のご尽力で、平成18年から整形外科教授を拜命させ、10年間脊椎外科に専念して、深く感謝しております。

昭和大学に赴任して半年が経ちますが、成人脊柱変形を中心にあらゆる脊椎の手術を行い、臨床・研究に熱心な若くエネルギーのあるスタッフにも囲まれ、充実した日々を送っております。私の赴任と同時くして、ハイブリッド手術室（任意の面でのCT画像が瞬時に得られます）が開設され、高難度の脊椎手術においても、正確かつ安全な手術が担保されています。昭和大学には、旗の台の本院の他にも藤が丘、横浜北部、江東豊洲という3つの魅力的な病院があり、その繋がりが今後楽しみにしています。

私は、学生時代は硬式庭球部に所属していました。

5年生の時には財団法人猪之鼻奨学会から2年分の学費相当の奨学金を貸与していただく事ができましたが、当時、親に内緒でウインドサーフィンのボードを入手して、最後の学生生活を謳歌した少々ほろ苦い思い出もあります。

かくして、他大学を渡り

## 帝京大学ちば総合医療センター

### 外科(乳腺・甲状腺外科) 教授

#### 宮澤 幸正 (昭60)



2015年10月1日付けで、帝京大学ちば総合医療センター外科(乳腺・甲状腺外科)教授に就任いたしました。謹んでごあいさつを申し上げます。

私は、1985年に千葉大学医学部を卒業し、同年に第二外科に入局させていただきました。この年は、佐藤博教授が退官され、磯野可一教授が就任された年でした。当時の第一外科は、野武士のような先生方の集まりで、回診の最中に、治療方針の意見が合わない時

歩いていても、「どう、元気？ 大丈夫？」と、いつも暖かく迎えてくださる「ゐのはな同窓会」の皆様は、私にとってまさに実家の様な特別な存在です。ひきつづき精進してまいりますので、これからも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

93年の年明けに、磯野教授より帰局して乳癌を担当するようにとのご指示をいただき、同年帰局いたしました。その後、手探り状態で、乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療、研究を行ってまいりましたが、磯野教授には、大変ご迷惑をおかけしたにもかかわらず、やさしく見守っていただき、2000年には、テネシー大学に文部科学省在外研究員として留学もさせていただきました。その後落合武徳教授にも、大変ご面倒をみていただき、2006年からは、隔年の千葉大学医学部附属病院 乳腺・甲状腺外科科長にもさせていただきました。松原久裕教授に教授が代わられても、大変お世話をいただき、2009年に先端応用外科准教授に、2014年に千葉大学医学部附属病院診療教授(乳腺・甲状腺外科)に就任させていただきました。

また、私は、学生時代に硬式野球部に所属しており、野球部の諸先輩、特に元医学部長の高橋英世先生、臓器制御外科(旧第一外科)の宮崎勝教授にも大変お世話になっていただきました。

このように千葉大学医学部の諸先輩方大変お世話になりながら、千葉大学医

学部一筋で診療、研究を行わせていただきました。今回、帝京大学から、声をかけていただき、千葉大で培った能力を生かせれば、千葉大に対する御恩返しになるかと考え、教授に就任させていただきました。

帝京大学ちば総合医療センター外科は、消化管外科を幸田圭史教授が、肝・胆・膵外科を田中邦哉教授が担当しており、私が乳腺・甲状腺外科の担当となりました。乳腺専門医が1年前に退職し、1年間乳腺外来が閉鎖されていたこともあり、ゼロからのスタートで、近隣の先生方へのごあいさつ等も含め、一から作り直している状況です。大変な状況ですが、やりがいもあり、今後頑張つて、診療体制を充実し、ゆくゆくは研究体制も整え、千葉大学医学部の名に恥じぬよう努力し、本学の発展につくしてゆく所存でございます。

磯野教授、落合教授、松原教授をはじめ、いままでお世話になった千葉大学医学部同窓の諸先輩、同僚、後輩の先生方には大変感謝いたしております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

### 東京女子医科大学八千代医療センター

小児科 教授

高梨潤一 (昭63)



平成27年8月1日付にて、東京女子医科大学八千代医療センター小児科教授に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。私は、昭和63年に千葉大学医学部を卒業いたしました。学生時代は準硬式野球部に所属し、多くの尊敬する先輩方、後輩たちに恵まれ、チームで一つのことに向かう楽しさを学びました。医療に通じる経験であり、私の貴重な財産であります。

卒業後は故中島博徳教授が主宰される小児科学教室に入局し、新美仁男教授に小児科医としての基礎と心構えをご指導いただきました。また、準硬式野球部の先輩でもある杉田克生先生(千葉大学教育学部教授)に師事し、小児神経疾患の診療に従事いたしました。当時はMRIが臨床現場に導入され始めた時期であり、

小児神経疾患・代謝性疾患の画像診断、脳代謝の研究に携わりました。平成13年にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校放射線科で小児神経放射線学の第一人者であるBarkov教授のもと研修する機会を頂きました。心地よい環境で自分の好きな研究に明け暮れ、米国文化に触れることのできた1年でした。留学を早くお認め頂きました河野陽一教授、留守を託した神経グループの先生方に感謝を申し上げます。

平成17年に亀田メディカルセンター小児科に転出し、平成26年から東京女子医科大学八千代医療センター小児科に入職いたしました。

この間、日本の小児に好発する急性脳症の臨床研究に携わり、Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion (AESD、平成27年に医療費助成対象の指定難病に認定)、clinically mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenial lesion (MERS) 2つの臨床症候群を確立い

たしました。同窓の先生方からご協力賜りましたことに感謝申し上げます。

さて、八千代医療センター小児科は、全国で31施設しかない日本小児総合医療施設であり、千葉県唯一の集中治療医学会認定のPICU、千葉県で2施設のみ総合周産期母子医療センター(NICU)を有しております。八千代医療センターは平成28年12月に設立10周年を迎え、新棟が竣工予定(6月、501床に増

床)ですが、小児科はNICU、GCUあわせ120床余となる予定です。寺井勝前教授(千葉市立海浜病院副院長)の築かれた小児科をさらに発展させ、研究・教育にも尽力いたす所存です。下条直樹教授(千葉大学大学院医学研究科小児科学教授)ならびに、あのはな同窓会の諸先生方のご指導、ご支援を今後とも賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

### 防衛医科大学校病院

歯科口腔外科 教授

横江秀隆 (岡山犬歯・昭63)



2015年10月1日付で、防衛医科大学校病院歯科口腔外科教授を拝命いたしました。千葉大学在職中のご指導、ご支援に深く感謝申し上げます。

防衛医科大学校は、医師である幹部自衛官を育成することが設立の目的です。それに加え、歯科口腔外科は、陸・海・空自衛隊で採

用した歯科医官の育成も担っております。歯科医官は、駐屯地の医務室で隊員の歯科治療を行うだけではなく、隊員の口腔健康管理、医官のいない部隊においては部隊衛生の責任者としての任務も課されております。また、近年複雑に変化する国際情勢の中、多国間安全保障協力として周辺諸国への医療支援が行われております。新しい法律の制定により、今後益々安全保障的役割としての医療支援の重要性が高まること予想されます。軍事歯学における口

腔外科の役割も変化し、古くからある顎顔面戦闘外傷への対応だけではなく、安全保障的役割の一環として環太平洋パートナーシップ協定に基づき、米軍等と協力して医療支援が行われ、東南アジア諸国に歯科医官が派遣されて、短期間に多くの技術を行っております。従って、安全で、効率のよい抜歯技術の習得は必須となります。また、野外という特殊環境下で歯科医療を行う上での、職業感染対策、医療機器の消毒、環境整備など、感染対策の教育も欠かせません。

軍事歯学用語に、歯科の即応態勢(Operational Dental Readiness)という言葉があります。これは、派遣部隊の円滑な任務遂行を目的とした健康管理、人的戦力の確保のことで、部隊の任務遂行を目的として人的戦力である軍人(我が国では自衛官)を身体的に良好な状態に保ち、派遣の際即応できるように管理しておくものです。口腔外科としては、若い隊員に智歯周囲炎が任務中に発症しないよう、平時に、検診による評価と治療介入を行うことが該当します。

口腔外科疾患に関する検診・診断法の確立、発症予

### 人事異動

特任教授

イノベーション医学

大島 淳子

(筑波大・昭54)

准教授

バイオメディカル研究センター

坂本 明美(昭62)

医学研究院助教より

グローバル臨床試験学

佐藤 泰憲

同特任准教授より

小児外科学

齋藤 武(平6)

同講師より

講師

粘膜炎疫学

武村 直紀

(北海道大・平17)

同特任助教より

臨床腫瘍部

岩澤 俊一郎(平14)

同助教より

他大学教授

帝京大学ちば総合医療センター

外科(乳腺・甲状腺)

宮澤 幸正(昭60)

防衛医科大学校病院

歯科口腔外科

横江 秀隆

(岡山犬歯・昭63)

埼玉医科大学総合医療センター

乳腺外科

矢形 寛(金沢大・平2)

### 平成27年度 大学院医学薬学府 10月入学者

これからも皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 神経内科学 3名
- 小児病態学 1名
- 臓器制御外科学 1名
- (千葉県がんセンター)
- 分子腫瘍生物学 1名
- 生殖医学 1名
- 循環器内科学 1名
- 神経科学 2名
- (社会精神保健教育研究センター)



# るのはな同窓会各地区会長挨拶

## 神奈川のはな会会長就任のご挨拶

神奈川のはな会  
新会長 小野田 昌一 (昭40)



平成27年7月4日に開催された神奈川のはな会総会で役員交代の件が審議され、森豊会長(昭37)が名誉会長に、三科孝夫理事(昭46)が副会長に、そして私が会長という役員会の案が承認され、私が会長に就任致しました。

神奈川のはな会は初代の津田修二先生(大12)が昭和50年まで務められ、昭和63年に就任された5代目の富田裕先生(昭30)が22年の長きにわたり会を主導され、現在の形に落ち着きました。それからは、神奈川のはな会は富田先生を核として活動しており、平成22年に富田先生が会長退任を表明され、当時副会長であった森先生が次期会長就任を固辞され

たときには、会員は困惑致しました。役員の中では私が森先生に次いで年長でしたので、私が森先生を説得しました。とにかく一期(3年)でもできる範囲で会長をお願ひしたい。その後は年次から言ひましても私が引き受けますから、という話をしました。

森先生に会長就任をご承諾いただき、新体制が発足して間もなく、神奈川のはな会は激震に見舞われました。富田先生の突然のご逝去です。神奈川のはな会の事務局は富田先生の金沢病院におかれ、実務は病院の職員の方にお願ひしていました。森先生はこの難局を見事に乗り切られましたが、事務局に関しては現在も流動的です。

私は神奈川のはな会の新会長として前向きな抱負を述べたいところですが、千葉大学のはな同窓会と同様に難問を抱えています。組織率・会費納入率・総会出席率などは研修制度が変わってからの低迷しており、現状維持から何とか上向きにならないかと模索しています。金沢病院の新しい理事長にお願ひし、当面事務局を置かせていただくことになりました。実務をパートナーの方に願ひする方向ですが、現在の状況を維持する

## 東京のはな同窓会会長を引き継ぎました

東京のはな会  
新会長 伊藤 達雄 (昭42)



あけましておめでとうございませう。

昨年6月13日の東京のはな会総会にて済陽高穂前会長(昭45)の後任として会長に就任いたしました伊藤達雄です。

私は昭和42年卒業、最後のインターンを終了、昭和43年当時鈴木次郎教授(昭14)が東京駅にて急逝され、混乱期にありました千葉大学整形外科に入局いたしました。その後昭和54年には

るのはな同窓会ではありません。幸い、神奈川のはな会には有能な会員が大勢おりますので、知恵を出し合い、現状から研修制度が変わる前のレベルに近づけたいと考えております。どうぞよろしく願ひいたします。

多くの同窓会誌の内容も思い出、回想録、旅行記などが多く、同好の集まりのような印象でした。そこで私のまず思うところは、若手の同窓生が積極的に参加していただけるような東京のはな会の活性化です。

活活性化に向けてまず理事会の刷新、具体的には、①理事の若返り、女性の登用、②同窓会の各会務の明文化、③IT、Netの活用、④理事会開催日の定例化などです。早速実行に移し、若手理事の選任時に多くの方から「母校千葉大学のためにお役に立ちたい」との言葉をいただき、先行きの明るさを感じました。続いて新年会、総会をはじめとする各種イベントなどを、会員の参加が見込まれるように魅力的にする。即ち多くの活躍していただける現役の方のspotlightなどを企画し、得意技、特長などを共有したいと思ひます。そして勤務医と開業医双方の情報を密にしていきたいと考えております。また同窓会報、勤務医部会報を会員にとってメリットのある情報を記載すること。勤務医部会を充実し、都内の病院に勤めて

多くの同窓会誌の内容も思い出、回想録、旅行記などが多く、同好の集まりのような印象でした。そこで私のまず思うところは、若手の同窓生が積極的に参加していただけるような東京のはな会の活性化です。

活活性化に向けてまず理事会の刷新、具体的には、①理事の若返り、女性の登用、②同窓会の各会務の明文化、③IT、Netの活用、④理事会開催日の定例化などです。早速実行に移し、若手理事の選任時に多くの方から「母校千葉大学のためにお役に立ちたい」との言葉をいただき、先行きの明るさを感じました。続いて新年会、総会をはじめとする各種イベントなどを、会員の参加が見込まれるように魅力的にする。即ち多くの活躍していただける現役の方のspotlightなどを企画し、得意技、特長などを共有したいと思ひます。そして勤務医と開業医双方の情報を密にしていきたいと考えております。また同窓会報、勤務医部会報を会員にとってメリットのある情報を記載すること。勤務医部会を充実し、都内の病院に勤めて

区の地区内および地区間の交流、イベントを創成する。近隣ののはな会との交流も全体の活性化につながるものと思ひます。特に研修生を含む新任の先生方の紹介や研究会、講演会などのお知らせなど。また医療連携のための同窓生の情報および行政に携わっている同窓生の情報なども活用していき、さらに若い卒業生の動向、希望、要望などをくみ取っていかたいと思ひます。

最後に会費納入率の向上です。現在約800名の会員登録に対し、会費の納入率はわずか30%程度と低迷しております。これも本会に魅力を感じられず、のはな同窓会会員としての誇りが感じられていない証左でしょうか？ 活性化、名簿づくりと合わせて、草の根運動にて改善したく思ひます。

### のはな同窓会への寄附

古山 信明 (昭43)

一万円

ありがとうございました。



胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症

# 胃炎、食欲不振、胃痛、嘔吐に

株式会社ツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合せは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

## ツムラ六君子湯

エキス顆粒(医療用)

■効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は、製品添付文書をご参照下さい。





# 各地の は な 会 だより

## 山梨県支部

平成27年度山梨の は な 会総会が7月2日、甲府市のホテル談露館にて開催されました。本年は諸事情により例年の6月より少し遅れたためか、また急遽御欠席の先生もおられ11名参加と例年より少々寂しくなりました。



始めにこの一年でお亡くなりになられた二名の先生のご冥福を祈り黙とうを捧げました。続いて清水天会長にご挨拶を頂き、本日御欠席の諸先輩の近況についてもお話を頂きました。

次いで昭和63年卒の大西洋先生の山梨大学放射線科教授就任披露と記念品贈呈を行い、先生からのご挨拶を伺いました。千葉からみえた内山暁教授から始まった教室の事、最近の放射線科は診断と治療の両輪からなっている事、治療成績はとてども向上しており、県内でサイバーナイフも使用できる等環境も大変整って

とこの事でした。今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

続いて山角博先生の乾杯、ご挨拶を頂きました。美味しい料理とワインを頂きながら歓談を重ね、山角先生のフランス旅行中での入院のお話はとても印象的でした。またの は な 同窓会常任理事の花輪孝雄先生より理事会のご報告があり、最後に出席者全員の近況報告が行われ、次回の再会を約束し閉会となりました。

## 信州の は な 会

平成27年7月11日に信州の は な 会総会・学術講演会が長野駅前ホテルメトロポリタン長野にて開催されました。当会は現在会員数57名、当日参加者13名と会員数・総会出席者共に減少の一途を辿り、信州にお

けるの は な 同窓会員の勢力縮小傾向は時代の趨勢で致し方の無い面もあります。が、いささか寂しくも残念なことです。

定例総会は、新会長に宮坂齊先生の就任が参加者全員の賛同で決まり、同会長の新任の挨拶に始まり、ついで当日遠路はるばる来訪されご臨席を賜った、済陽高穂の は な 同窓会会長、千葉大学大学院医学研究院麻酔科教授の磯野史朗先生にご講演をして頂きました。

済陽先生には「健康・長寿の秘訣」と題し、生粋の外科医が、その人生・研究生活を通じて成熟の果てにたどり着いた、がんにならず、長寿の源である「健康長寿の食生活習慣」について日頃の思いを込め、熱く語って頂きました。「肩唾」などと陰口を叩かれることも再三、気にとめることもなく我が道歩んできた自信に満ち溢れたご講演でした。晩年の中山恒明先生の動画なども（人間、自然治癒力だよ）拝見することもでき、心地よく啓蒙された一時でした。

磯野先生には、その世界の第一人者として睡眠時無呼吸症候群（SAS）についてのご高説をうかがい、その掘って来る病因・機序

について、またその研究手法、麻酔科との関わりにつき、平明かつ的確にお話しされ、普段何気なく診療しているSASに関し認識を新たに、また先生の論文など参照しつつ勉強しようと言う気にさせて頂きました。

両先生には13名という少人数の聴衆を相手に、気持ち良くご講演頂き本当にありがとうございました。両先生を囲んで出席者一同の記念撮影を行った後に懇親会に移りました。見渡してみれば13+2の15名のこじんまりした会で、以前に比し、ご高齢の先生方と若い世代の先生の不在が目立ち、結局いつもの知った顔の常連組の参加に限られてしまいました。今回欠席の先生方も3年に一度の会ですので親睦を深める意味でも、今回は是非、ご参加のうえご近況をお聞かせください。懇親会は済陽先生の御発声で始まり（先生曰く、「こういう会でのこういう食べ物はたまには良いんだよ）アルコールと料理に囲まれて恒例の自己紹介・近況報告で和気藹々と進み、最後はすっかり貫禄を増した長老の春日元長野市医師会会長の締めで、また3年後にと楽しくも懐かしい時間を過ごし、お開きとなりました。

写真右から  
前列：野口徹男（昭34）、春日建邦（昭34）、済陽高穂会長（昭56）、栗田純夫（昭59）、長（昭45）、磯野史朗教授（昭59）、宮坂齊（昭42）、柳沢貫一（昭40）、小林敏生（昭53）  
後列：熊谷信平（山形大・平3）、内田治男（昭59）、松林巖（昭54）、繁田美香（昭56）、栗田純夫（昭59）、宮尾陽一（昭54）、小泉正幸（北海道大・平6）、清水俊行（昭56）  
（栗田純夫）





### 安房のものはな会

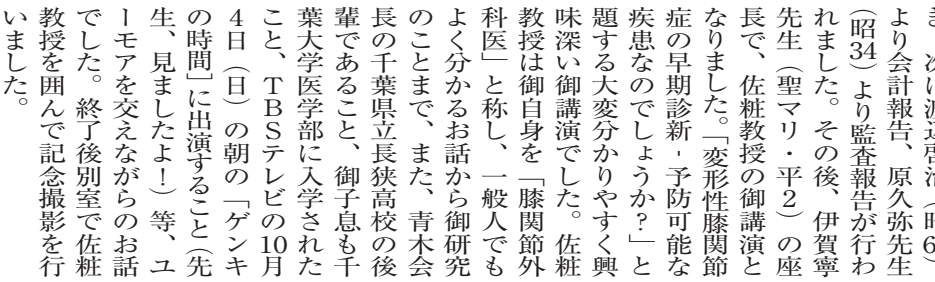
平成27年9月16日(水)、平成27年度安房のものはな会総会・講演会が、千葉大学予防医学センター教授佐粧孝久先生(平元)をお招きし、たてやま夕日海岸ホテルにて開催されました。総会では会長の青木謹先生(昭36)より御挨拶をいただき、次に渡辺啓治(昭61)より会計報告、原久弥先生(昭34)より監査報告が行われました。その後、伊賀寧先生(聖マリ・平2)の座長で、佐粧教授の御講演となりました。「変形性膝関節症の早期診断・予防可能な疾患なのでしょうか?」と題する大変分かりやすく興味深い御講演でした。佐粧教授は御自身を「膝関節外科医」と称し、一般人でもよく分かるお話から御研究のことまで、また、青木会長の千葉県立長狭高校の後輩であること、御息も千葉大学医学部に入学されたこと、TBSテレビの10月4日(日)の朝の「ゲンキの時間」に出演すること(先生、見ましたよ!)等、ユニモアを交えながらのお話でした。終了後別室で佐粧教授を囲んで記念撮影を行いました。

「波奈総本店」に移り、本位田泰介先生(昭28)の乾杯の御発声で懇親会となりました。

自己紹介をしながら各人懐かしい人物やエピソードを思い出し、その後もそれぞれ話は尽きず、佐粧教授も丁寧に話しに付き合ってくださいました。本当に楽しい一時を過ごすことができました。

最後に、この8月に逝去された西川義明先生(昭34)の御冥福を祈り黙祷をささげ、閉会となりました。

写真右から  
前列・原久彌(昭34)、青木謹(昭36)、佐粧孝久教授(平元)、本位田泰介(昭28)、関谷信平(昭38)、水谷正彦(昭52)  
後列・小石川比良来(昭59)、黒野隆(東海大・昭59)、辻



博勝(平2)、武内重樹(北里大・昭53)、天野晋(平3)、渡辺啓治(昭61)  
他に伊賀寧・聖マリ医大・平2、相正人(島根医大・平9)が出席しました。(渡辺啓治)

### 東京のものはな 耳鼻科医会

平成27年7月23日に銀座2丁目のホテルモントレにて第16回東京のものはな耳鼻科医会が開催されました。第16回の企画は、本会の幹事である笠井創先生(昭52)から例年どおりアレルギー性鼻炎の治療薬と保険医療の観点からの動向について講演いただきました。女子医科大学耳鼻咽喉科医局員からはディレグラの使用経験についての講演、さらに都立がん感染症センター駒込病院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍外科の晝間清先生(平元)から、「頭位性のめまい」について自身の業績と臨床的に極めて有意義な講演をいただきました、多くの質問があり活発な講演となりました。とくに晝間先生のめまい患者さんへの熱心な取り組みと国内外の学会発表や論文には参加者の皆感激しております。

講演会の後は例年どおり

懇親会が開かれ、今年は40名弱と多くの先生のご参加を頂きました。のものはな窓会の先生(千葉大、東大他に入局された方含め)、女子医大医局員、関連施設である都立がん・感染症センター駒込病棟の先生方も参加し中広い交流の場となりました。笠井幹事の司会と私吉原俊雄(昭53)の挨拶からはじまり、神田敬先生(昭35)からの挨拶、森豊先生(昭37)による乾杯の発声やご挨拶をいただきました。

出席者は出身大学は様々ですが、のものはな関係では卒年順に神田敬(昭35)、森豊(昭37)、宮下久夫(昭38)、林崎勝武(昭44)、笠井創(昭52)、工藤典代(大阪大・昭52)、吉原俊雄(昭53)、永田博史(昭57)、三浦巧(昭57)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、加藤雄一(昭58)、中村宏(大阪医大・昭59)、持田晃(昭59)、伊藤宏文(昭61)、本杉英昭(昭62)、藤原剛(昭63)、晝間清(平元)、吉田耕(平3)、岩本容武(平5)、大谷聡(平7)、留守卓也(平7)、小野健一(平12)、大和多優里(平19)、牧角祥美(平19)、黒川友哉(平23)です。

加えて女子医大医局員が

参加し活発な懇親会となりました。また来年の夏の開催を楽しみに一旦中締めとし、会

終了後には有志で二次会と流れ大いに盛り上がった会となりました。(吉原俊雄)





# ク ラ ス 会

## 三一會(昭31)

平成27年9月19日(土)、JR錦糸町駅近くの東武ホテルバント東京にて、午後4時半より7時半まで開催された。参加者は会員8名、夫人3名、都合計11名である。特に、今回、故志村公男君の奥様が、ご主人の日ごろのお世話に対するお礼を述べたいとのことと特別参加された。

- 松丸信太郎君の司会で開会。はじめに物故者への黙祷を捧げた。今回は、李保文彦君(26年12月11日)、関光倫君(27年2月4日)、鈴木健司君(27年8月28日)、辻輝蔵君(27年9月5日)の4君である。謹んでご冥福をお祈りする。続いて事務局の小野清四郎より会務報告。現在、会員80名中31名(不詳は江連盛臣君)。次の三君に受章等のお祝いをし、伝統工芸士作の江戸切子の小カットグラスをお贈りした。
- ① 高澤五郎君 (26年秋) 旭日双光章
  - ② 神尾 鋭君 (26年秋) 瑞宝双光章
  - ③ 北川定謙君 (27年度)

あのはな同窓会賞・功労賞(今回初)  
また、本会計が赤字となり、運営に苦慮していたところ、桑原久、庵原昭一、関夫人、辻夫人、高野昇、鈴木夫人、上原すゞ子、の各位より寄付を受け、無事持ち直した。

刻になり、諸君のご健勝と来年の無事再会を祈念して、三献の手締めにて閉会となった。  
ちなみに、来年、卒後60周年の例会は、総意により最終となりますのでどうぞ奮ってご参加下さい。  
写真右から  
前列：森博志、井幡宏、北川定謙、上原すゞ子、志村夫人  
後列：松丸信太郎、神尾鋭、加藤繁夫、北川夫人、小野夫人、小野清四郎  
(小野清四郎)



## あのはな37クラス会 (昭37)

平成27年5月30日(土)、少し汗ばむ初夏の夕刻に恒例となった帝国ホテル東京に於いて会員29名(遅参2名)の参加をえて開催しました。  
集合写真撮影後、幹事杉岡昌明の司会で開会(幹事岩倉弘毅君は江戸川看護専門学校開校式へ校長のため出席)。18名の物故会員へ黙祷を捧げ、郡山の十林賢児君の乾杯発声で開宴した。

福士和夫君は、T P Pで食糧自給率低下が懸念される中、青森の食糧自給率は120%だという。遅参した松江寛人君は生ある限り、震災・原発被曝者の検診で現地通いを続ける、と医学連活動家の余憤が醒めていないようだが、少し疲れた様子だった。一病息災マイペースでセミ・リタイア医師生活を送るのが多数派で、フルタイムで生涯現役を目指すものは少数派であった。

次回の相談のため17階のアクアへ上がり着席した途端にユラユラと大振幅、大揺れ! 8時24分頃の小笠原諸島西方沖地震(マグニチュード8.1、深さ682km)：日本全国が揺れた地震：に遭遇した。8時に散会、帰途の交通機関が大混乱し深夜の帰宅となった会員もいたとの後日談あり。天災は忘れたころにやってくる。と切迫帰宅難民を実感。

写真右から  
前列：高井満、山根友二郎、十林賢児、杉岡昌明、石山淳一、油井真知子、安達恵美子、矢野靖子  
二列目：中村嘉孝、柳沢健一郎、伯野中彦、大原啓介、福士和夫、吉川正宏、田島誠  
三列目：犬野孝則、宍倉正胤、井坂誠二、瀬川襄、森豊、高梨健治、土井修、油井信春  
最後列：勝田貞夫、小林總介、山本駿一、日浦利明、入枝幸三郎  
(杉岡昌明)

あのはな同窓会賞・功労賞(今回初)  
また、本会計が赤字となり、運営に苦慮していたところ、桑原久、庵原昭一、関夫人、辻夫人、高野昇、鈴木夫人、上原すゞ子、の各位より寄付を受け、無事持ち直した。

被災後の復興状況については、震災・原発事故後の子供の肥満とPTSD関連のアルコール依存症、家庭破壊問題が深刻化して心の傷あとも深いようだ。全員の近況報告では、戦後70年の節目今年3月NHKスペシャルで放映された千葉の蘇我小学校の児童疎開の話が出て、同時期を国民学校生で過ごした吾々は皆フラッシュバックし、戦争体験と戦争の愚かさを後世へ伝える責任を改めて感じた。久しぶり参加の水戸の井坂誠二君は、婦人科検診外来のみへシフトダウンし、予定した老健施設建設を断念し、予定地に広い太陽光発電施設建設構想を述べていた。

看護専門学校開校式で遅参を余儀なくされ、会半ばに駆けつけてくれた今なお校長として大活躍の幹事岩倉君から6月27日(土)木更津甚句鑑賞会(於：木更津富士屋・季眺)のオプショナルツアー案内があり、日浦利明君の懐かしのメロデー「ハモニカ独演後、油井真知子さんの指揮で、青い山脈」を全員で大合唱して来年の再会を約して散会。毎年連続出席の伊藤文雄君と伊東治武君が今回体調不良で不参加であったが、来年は元気な顔を見せてくれることを祈るや切。





三八会(昭38)

今年も恒例のクラス会が10月4日、三井ガーデンプール千葉で開催された。遠来の和歌山玉置哲也君、名古屋松井宣夫君を含め参加者は26名(ご夫人1名、令嬢1名を含む。当日急遽不参加者2名)。

卒業後最初の集まりは松井君の肝煎りで浅草松葉屋で開かれ、舞台や映像の世界に入り込んだような気分を味わった記憶がある。若新政史君と花魁の絡みも懐かしい思い出。以後、忙しさにまけてなかなか集まらず、ゴルフ愛好者達が持ち回りで会を開いていたが、結果発展的にクラス会に昇格したものである。当初は1泊して翌日ゴルフ組と観光組に分かれ夫々に楽しんだ。参加者が増え、ご夫人やご家族を同伴される方も多く、各地で現役として活躍していた人達の厚意に甘え、ゴルフを嗜まない組も観光目的を十分に堪能させて頂いた。沖縄で3回、和歌山白浜温泉、名古屋、三島、長野、甲府、横浜、栃木鬼怒川温泉、那須塩原、山形上ノ山温泉など個人では行きにくい場所もいろいろ経験させて頂いたし、他

に会食を中心として東京で4、5回、千葉で2回と会を重ねてきた。

今回は加藤友衛君の司会で始まった。香西襄君から会計報告があり、残預金はまだ残っていると聞き、幹事の努力に感謝。昨年の仙石原の会以降亡くなった金武禧之君、守矢和人君、宮治誠君に黙祷を捧げ、在りし日の姿を偲んだ。また今年春に叙勲の栄に浴した宮治君(3月に遡って)、嶺井進君、鳥羽剛君、三木亮に拍手、同級生の皆さん方を差し置いての受章に多少の面映ゆさを感じた。今は最長老の沖田正彦君の挨拶と乾杯の音頭に始まり、体調を崩しての欠席者を憂慮しながらも夫々が近況や体調を述べ、浅野尚君の心境を託したと言う「寂しいかしの木」の透き通った歌声に聞き惚れ、一時を楽しく過ごした。病気を克服した人闘っている人など様々で他人事とは思えなかった。和やかなうちに、来年以降の会のあり方を再検討することとで再会を約して終了。昨年は混雑を避け箱根仙石原で平日に1泊の会を持ったが、まだまだ現役で活躍している諸氏からは不評であった。今年は千葉で会食後、フルオープンした千葉大学

医学部附属病院外来診療棟を見学、同窓会館では寄附者のネームプレートなどが広がっていたテニスコートが無くなり、野球場、サッカー場も消えて行く運命と聞かされ、これも時代の流れと一抹の寂しさを感じた。

休日にも関わらず総務課小泉さんに診療棟内を案内して頂き、機能的に作られているであろう新棟を見学、旧大学病院と対比し感慨を覚えた。写真右から前列・尾崎賢太郎、北村温、鳥羽剛、三木亮、栗原伸夫、



若新政史、香西襄、松井宣夫、長山忠雄、後列・加藤友衛、新堀夫人、蘭部和子、木下敏子、林直諒、寺島市郎、村山憲太、玉置哲也、木下昌、大津裕司、楯二郎、宮下久夫、浅野尚、沖田正彦、熊田正義、若新令嬢 (三木亮)

よんまる会(昭40) 卒後50周年記念 同期会報告

今年、昭和40年卒の我々は卒後50年を迎え、先年新装なった東京ステーションホテルで去る10月22日(木)に記念同期会を開催した。シンガポールから曾僕俊君も駆けつけてくれて38名が寄り集まって昔話を花を咲かせ、るのはな同窓会から記念メダルと感謝状も頂戴した。記念メダルはともかく、感謝状は些か分に過ぎる文言が並び少し気恥ずかしいが、思い返せば各地に散って様々な分野で母校の名をよしんば上げずとも恥ずかしめない活躍で日本の医療の底支えに努め、長年同窓会費も納めてきたことに間違いはない。皆で、喜んで頂戴した次第である。同窓会員の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、我々は、わが国が経済大国へ踏み出そうとした昭和34年の入学で、学費がどこも値上り始めた頃である。値上げ反対運動などで学生運動が活発化し、入学時には日米安保反対闘争など政治運動に盛り上がりつつあった。千葉大学でも学生は腫れ物に触るよう扱われても、お蔭で、一般のノンポリ学生にとっては自由で伸び伸びと過ごせたよき時代だった。同時に、我が国にモーターゼーションの波が起こり、本医学部にも学生の車が多くなりだしたのは、我々の世代からと記憶している。

学部3年の夏には、20台余りを揃えて、同期生80数名全員で信州にドライブ旅行ができた。予定は日曜の日帰りドライブだったが、余りの好天と高原の心地よさに誘われ、つい一泊となった。しかし、月曜には、最も厳格な滝沢延次郎教授こと、滝パトの病材講義がある。運悪くクジを引き当てた特使二人が帰業し、翌朝休講を願ったところ、その二人が悪だくみの張本人としてコテンパンに絞上げられた、という笑い話も今となれば懐かしい。スバル360やホンダS600などユニークなメカに興奮したクラスメートには今でもカーキチが多い。卒業の時はインターン闘争があり、市中病院ホイコット・大学立て籠もりがあったり、入局すれば無給医運動や医局の民主化運動など、いろいろな医学部の歴史が思い出される。30周年節目の同期会では、記念事業として同期生の浄財で「よんまる会奨学金基金」を立ち上げた。年間144万円の限られた予算であったが、それからの10年間、毎年二人づつ、本医学部で勉学する発展途上国からの留学生に奨学金を贈り続け得たことは、同期生の強固な絆の証しであり、よい思い出であった。

会の半ば、元真歯医学研究センター長の同期生、西村和子さんによるシヨートレクチャーがあり、記念会を彩った。今年ノーベル医学生理学賞受賞の大村智博士に因んで、「微生物資源応用の歴史と現状」の話をされたが、最近はどこも利権がらみで資源保護の姿勢が厳しく、研究自体も難しくなったというあたりは、彼女のキャリアがバックにあるので大変興味深かった。出席した元気な同期生と歓談していると、更に50年後の同期会もありそうな気



焰が上がるが、鬼籍に入った物故者も19名となり、生存率は77・6%である。黙禱を捧げていると、やはり後期高齢者の現実に戻る。次回は未定であるが、再会を約した二次会の後、有志は二階のバーコーナーで会の余韻をさました後、「後姿の幸せばかり」の都会の街に三々五々散会となった。

写真右から  
前列：角田興一、村松芳子、吉川廣和、後藤いづみ、西村和子、税所宏光、曾傑俊、伊藤ルミ、崎山比早子、石神敏子  
2列目：野口眞理、中村泰久、瀧澤弘隆、大本恭平、森博通、関谷宗英、遠山敬介、中村千春、小山千明、加藤元一、明星志貴夫

3列目：曾野文豊、長尾龍郎、柳沢貫一、三好弘文、小澤弘侑、小野田昌一、伊藤光政、安藤由記男、高瀬靖広、最後列：尾崎梓、首村紀夫、高野元昭、久満董樹、山浦晶、田中則好、妹尾素淵、渡辺攻、(角田興一、渡辺攻、吉川廣和、税所宏光)



43卒クラス会(昭43)

私達のクラス会員は昭和43年に卒業した仲間達です。今回は新築成った新病院外来棟の見学を兼ねて10月11日(日)に医学部同窓会館で行われました。久しぶりに訪れた母校のキャンパスと言う事もあり、かなりの人が構内で迷った様でした。先ず、休日にも関わらず、病院の関係者が正面玄関で出迎えてくれて、大学病院の新外来棟の見学を行いました。私達の慣れ親しんだ外来とは全く違った新感覚の外來で、患者さんも迷う事無く自分の診察を受けられるであろうと感心致しました。その後、懐かしい連絡道路を通り、皆で同窓会館に向かいました。然し、その途中で医学部図書館に立ち寄りしましたが、日曜日

にも関わらず、見学をさせて頂いたのは望外の喜びでした。実は、図書館の入り口の近くには、私達43卒の有志が寄贈した素晴らしい絵が飾ってあるのですが、それが、今回ご夫妻で上海から参加されたヨソ先生の描いた絵なのです。今回は私達の同級生全員が期せずしてその絵を見ることが出来、皆、医学部側の配慮に感謝した次第です。皆でその場で写真を撮ったり、懐かしい仲間との懇談をしたりと楽しんだのは言うまでもありません。その後、午後1時半から同窓会が開催されました。先ず、物故者となった9人の同級生に黙祷し、盛幹事長の恒例の挨拶で懇親会が始まりました。沖繩から参加した堀川義文君が乾杯の音頭を取りましたが、今回は前出の上海からのヨソ先生御夫妻の他にタイ国からパシロップ君も参加されておりました。然し、本年新たに物故者に成ってしまった立原(徐)蓉子さんに関しては皆あまり知らなかったせいでかなりの人がショックを受けておりました。

その後、美味しいご馳走とワインにすっかり酔ってしまったのですが、楽しく愉快に過ごした時間はアツと言う間に過ぎ去ってしまいました。今回、同窓会館で開催するに際し、千葉の老舗のレストランが豊富な経験と知識で全面的に応援してくれましたが、これは会をスムーズに遂行するのに大いに寄与した事は言うまでもありません。その上、小雨のキャンパスから移動手段として雨の日曜日、数少ないタクシーをかき集めてくれて千葉駅や、二次会会場に移動する便宜も図ってくれたのです。

楽しかった同窓会ですが、残念ながら逝去された同級生の思い出話に成ると誰かからも無く、「本当に会いたかったが仕方ない」後は自分たち各々が健康に注意して少しでも健康寿命を長く保とうと誓い合った事は言うまでもありません。私達もあと3年で、卒後50周年を迎えます。それぞれが歩んで来た人生に誇りを持ってこれからも大切に過ごして行きたいと思いました。そして、卒後50周年には更に多くの同級生の出席を得た上でより盛大にクラス会を開催しようと思いを合せて

写真右から  
前列：盛克己、ヨソ・セーシン、和泉佳子、林雅恵、神津玲子、藤塚万里子、舟橋満寿子、高岡邦子、栗山喬之、青木靖雄  
中列：長谷川洋機、玉井輝章、保坂忠成、中村宏、中嶋弘道、唐澤祥人、堀川義文、星野聡、古山信明、鈴木昭一、小山哲夫、滝川弘志、和田源司  
後列：田中寿一、佐野元昭、鹿島孝、久野宗寛、北原宏、パシロップ・チャルワニツチ、松清央、高山直秀、鈴木秀、竜崇正、一瀬正治、佐藤英樹、藤塚光慶、千葉彌幸 (中村宏)





### 獅子の会(昭44)

昭和44年度卒業生同窓会(獅子の会)が平成27年7月19日より20日にかけて信州松代ロイヤルホテルで開催されました。

獅子の会は、近年海の日の前日に毎年開かれており、本年は小生(細井湧一)の出身地である信州で聞かれました。

7月19日は梅雨が明けた太陽の下、中川邦夫君のホームコースである、大浅間ゴルフクラブで16人が参加したコンペが行われ、猛暑の中文字通りの熱戦を緒方孝平君が制しました。

19日の夜の宴会は、右記ホテルで同伴者を含め40人が参加し盛大に行われました。私の開会の辞に続き西島浩君より、心ならずも先立たれた方がたの報告があり、吉田明弘君(彭栄達)、久安宣昭君に黙祷が捧げられました。恒例の各自の近況報告では、夫々元気に活躍されているようですが、一年ごとの時の流れを感じさせられました。中締め前に、平成28年度同窓会の開催に関しての発議があり、幹事に星山圭鉦君が推されました。同君も快諾され新潟県柏崎での開催の決意を

述べられました。

二次会も同ホテルでカラオケ大会が行われ、長野県の県歌信濃の国や、青春時代の歌でおおいに盛り上がり45年前を彷彿とさせられました。

7月20日は朝から、夏空の下、平成28年度のNHKの大河ドラマ真田丸の舞台である城下町松代の歴史観光巡りをしました。松代城

址(海津城)、真田宝物館、象山神社、松代大本営跡地下壕など印象深く思われ

ました。暑さにもめげず、同級生が和気あいあいと闊歩する姿は我々の若き良き時代を懐かしく思い出させました。午後散会となり別れを惜しみつつ夫々家路につきました。また元気な姿で再会できますように。



前列：奥村夫人、中林清美、東山都紀、吉井田美子、奥村康、土川秀紀、佐藤政教、細井湧一、百瀬玄機、内海夫人

2列目：星山夫人、中林正雄、東山義龍、吉井與志彦、内海武彦、緒方孝平、高橋容子、堀江弘、堀江夫人  
3列目：渡辺夫人、吉田夫人、吉田操、橋場永尚、坂本建彦、間山素行、中川夫人、上川夫人、西島夫人  
4列目：窪田勝也、河崎純忠、渡辺義郎、高橋秀禎、山本健介、山本夫人、西島浩、田沢洋一  
最後列：星山圭鉦、佐久川輝章、崎尾秀彰、中川邦夫、渡辺孝太郎 (細井湧一) 追記

細井湧一君には素晴らしいクラス会を企画し開催されたことに深く感謝いたします。あまりに突然のことです。驚きましたが、細井君は胃の病気のため平成27年8月30日に急逝されました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

(百瀬玄機、西島浩)

### 八〇会(昭55)

平成27年7月4日(土)に三井ガーデンホテル千葉において卒後35周年のクラ

ス会(幹事は伊藤順一郎、雄賀多聡、亀井太美子、湯口恭利、吉永勝訓の5名)を開催しました。前回の卒後30周年以来、ちょうど5年ぶりの再会で、大多数が還暦を迎えましたが、この五年間での物故者はなく、

まだまだ、皆現役で診療や学会活動のため、なかなか遠方在住者は参加ができませんでした。それでも、沖繩在住の潮平芳樹君・北九州在住の金澤保君をはじめ集合時刻の午後6時に間に合った47名でまず写真撮影を行った後に、開宴となりました。伊藤君と湯口君の司会兼開会のあいさつの後、前回は体調不良で参加がかなわなかったものの、その後心臓移植を受け見事復職した青墳裕之君の音頭で乾杯となりました。我々全員が医師であるにも関わらず、改めて医療技術の進歩を実感し、身の引き締まった瞬間でした。その後、前回同様各人が一分間スピーチを行いました。不健康・療養エピソードや孫・子・趣味・再々婚自慢等

和気あいあいと一次会の時間は経過し、雄賀多より次回クラス会まで名簿管理を行う旨の事務局連絡で一次会は終了となりました。引き続き、同ホテル内の

バーに席を移し二次会となりました。今回は「5年後に沖繩で開こう」「いや、5年では長すぎるので途中3年後に一回開こう」等々期日を決定できなかったものの、またの再会を約して散会となりました。

写真右から  
前列：米田洋子、湯口恭利、伊藤順一郎、松山泰久、吉永勝訓、雄賀多聡、土田豊美、青墳裕之、石川広己、

諸田英夫

二列目：潮平芳樹、栗原和男、栗林伸一、峯清一郎、水見寿治、本多昭仁、深澤一雄、須藤義夫、大崎達也、藤田明、亀井(轟)太美子  
三列目：榊原誠、中島浩志、久木田親重、関紳一、村山博和、松尾浩三、齋藤博明、岡野達弥、岡龍弘、水見(原)京子  
四列目：伊藤千秋、神崎哲人、橋本尚武、高橋淳、中





村博敏、宇田川郁夫、植松武史、遠藤弘良、丹羽(袖山)淳子  
 最後列：眞田孝裕、金澤保、沖田伸也、柿沼宏明、柴橋博之、石橋巖、寺林秀隆  
 他に杉原茂孝、砂田莊一、出沢明、中田好則、長谷川浩、が参加し計52名となりました。

(雄賀多聡)

### それからの五十六 それからの会(昭56)

これは56年卒業予定者卒業会という意味です。我々はまだもう10回以上クラス会を開いていると思いますが、るのはな同窓会報に寄稿するのは初めてです。みんな60才前後になって少し母校への意識も高まったということでしょうか。実は、この会の名称も決まっておらず、これは文責者が勝手に面白半分の名乗っているだけで、今回は変わるかも知れませんが(今たまたま山本五十六と同じ56であることに気がつきましたが、嫌いな人もいます)。

平成27年(2015年)

6月27日(土) 3時から有楽町帝国ホテルに家族も含め40人近くが集まりました。幹事は、石井猛、伊丹純、瀧口正樹、道永(竹内)麻

里、道永幸治、森石丈二でした。福武敏夫さんの(最長老?)、最近のご自著2冊の教科書の紹介も含めた元気の乾杯発声で開会になりました。

会も半ば、各人全員が近況の報告をしました。みんな、ほど良く年をとってきた感じで、いかにも同期会らしい盛り上がりでした。

我々の学年は在学中から、いわゆるロートル(老頭児)組が元気で「道草の会」を名乗るなど(なぜか現役・最年少の伊丹君も入ってましたが)いい味を出してくれていました。そろそろ転機を迎える人も多くなるころですが、みなさん前向きで、本当に「元気をもらおう」という言葉がピッタリでした。一方、悲しいことに、同期生4名がすでに他界しております、近年逝去された中原利郎さんと賀陽済さんに黙祷をささげ、ありし日を偲びました。二次会は、階上に場を移し、夕日の街並みを眺めながら、新旧の話が尽きぬ様子でした。

年表的ですが、在学前後は、1974年(入前年)ニクソン辞任・長嶋引退、1975年(進1)ベトナム和平、1976年(進2)ロッキード、1977年(学1)宇宙戦艦ヤマト、1978年(学2)キャンディーズ解散・成田開港、1979年(学3)アフガン侵攻、1980年(学4)百恵結婚、1981年(卒年)トットちゃん、そういう時代でした。懐かしいですが、

昨日のこの様な感じもします。では、また何年か、お元気で。  
 写真右から  
 前列：細井孝之、三浦正義、福井博行、森石丈二、吉川正治、中澤亨、伊丹純、松村竜太郎、石井猛  
 3列目：永島薫、中村広志、佐藤二郎、森田(石井)弘之、馬嶋正隆、椎名達也、田村雅治  
 4列目：後藤剛貞、土屋明弘、窪澤仁、道永幸治、高在完、川副泰成、瀧口正樹  
 (瀧口正樹)



(高橋)まさみ、福武敏夫、中村達雄、川野裕、道永(竹内)麻里  
 2列目：細井孝之、三浦正義、福井博行、森石丈二、吉川正治、中澤亨、伊丹純、松村竜太郎、石井猛  
 3列目：永島薫、中村広志、佐藤二郎、森田(石井)弘之、馬嶋正隆、椎名達也、田村雅治  
 4列目：後藤剛貞、土屋明弘、窪澤仁、道永幸治、高在完、川副泰成、瀧口正樹  
 (瀧口正樹)

### 緒方直史君教授就任 祝賀会兼同窓会(平3)

同期の緒方直史さんが帝京大学医学部リハビリテーション科教授に就任されました。スキー部の同期、大石嘉則さんが発起人となり、7月4日、京葉銀行文化プラザで「緒方直史君教授就任祝賀会兼同窓会」が開催されました。

発起人の大石さん、スキー部の大淵聡己さん、帝京大学から三浦文彦外科准教授、清水聡子眼科元教授から祝辞がありました。緒方教授のスピーチでは、学生時代の楽しい思い出、現在の大学院での医学教育の厳しさにふれられていました。私たちの学年は医学部



入学後30年が過ぎましたが、卒業アルバムが未完成でした。この会の中でアルバム制作業者への発注が終了したとの報告がありました。秋には発送となる予定です。  
 写真右から  
 前列：伊藤一茂、石塚伸子、大淵聡己、大石嘉則、緒方直史、清水(沖永)聡子、穴倉(伯野)めぐみ、梅原敬司  
 2列目：豊田康義、山口賢一、関直人、土井茂治、倉持宏明、草塩公彦、松野展俐代、阿部(山田)朝美、安藤(松本)道子  
 3列目：塚本喜昭、阿部啓和、石塚満、白鳥亭、吉田耕、市川千秋  
 最後列：小島広成、堀江美正、小林信雄、五十嵐琢司、三浦文彦、天野晋、古谷成慈、小島博之(石塚伸子)



# 千葉大学関連病院会議 設立総会を開催

平成27年7月26日(日)  
午後4時よりホテルニュー  
オータニ幕張において、千  
葉大学関連病院会議設立総  
会が開催され、93もの医療  
機関が一同に会した。

当会議は、千葉県研修協  
力関連病院長連絡会議を発  
展的に改組したもので、県  
内外の関連病院の結びつき  
を強化し、相互の医療レベ  
ルを向上させるための協議  
及び、学生臨床実習の充実  
並びに初期臨床研修・専門



写真右から齋藤康千葉市病院事業管理者、田村憲久衆議院議員、  
徳久剛史学長、山本修一病院長

医研修の相互の充実を図る  
ことを主目的としている。  
総会では小林欣夫副病院  
長の進行により、オープニ  
ングムービーが上映された  
後、山本修一病院長より当  
会議の目的について説明が  
あり、これからの医療に関  
するさまざまな問題に対し  
て既成概念に囚われず議論  
していきたい旨、あいさつ  
があった。続けて徳久剛史  
学長より、研修医を取り巻  
く状況の変化を踏まえて活

発な議論をしていきたい旨、  
あいさつがあった。来賓と  
して、田畑陽一郎千葉県医  
師会長、矢島鉄也千葉県病  
院局長、古元重和千葉県保  
健医療担当部長、齋藤康千  
葉市病院事業管理者、済陽  
高穂ののほな同窓会会長を  
迎え、ごあいさつを頂いた。  
各議事については司会より  
説明があり、審議承認され  
た。  
総会に引き続き開催され  
た、田村憲久衆議院議員(前  
厚生労働大臣)による講演  
会では、今後の社会保障制  
度についてユーモアを交え  
ながら熱くご説明頂いた。

## 高き志を支援する篤志の力

公益財団法人 猪之鼻奨学会  
会長 鈴木信夫(昭47)

医学部や薬学部の学生、  
あるいは、医学系および薬  
学系の大学院生の熱き志は、  
世の宝と言っても過言では  
ありません。無限大の可能  
性が秘められております。  
そのような学徒に少しでも  
お役に立つようと、奨学  
金を貸与しているのが、公  
益財団法人である猪之鼻奨  
学会です。この支援に申請  
可能な対象者については、  
従前の千葉大学所属の学生  
のみという制限はなく、千  
葉県下の大学薬学部内に  
籍する学生や千葉県在住の  
医学、薬学の学生とされて  
来ております。さらに、近々  
千葉県内に他大学の医学部  
が新設されますので、その  
医学部生へも拡大されるこ  
ととなります。したがって、  
猪之鼻奨学会の存在意義と  
果たすべき役割の重大性が  
深化して行く昨今です。

はありませぬ。様々な条件  
付きの研究助成とは違い、  
受賞者には利便性が良い賞  
です。昨今、この種の支援  
では、目先の研究成果が求  
められ、数値化しての研究  
業績の評価がなされてい  
ます。本賞では、そのよう  
なことをするのはなく、  
例えば、研究者としての芽  
生えの時期である方の受賞  
を促したいものです。  
では、奨学金額と助成金  
額がどれくらいかと言いま  
すと、前者では1名あたり  
30万〜60万円、後者では1  
名あたり50万円です。必ず  
しも、充分な額ではありません。  
毎年、この該当者数は、  
1〜2名の奨学生と4〜5  
名の研究者です。本賞が、  
数多くの諸先輩の方々によ  
り、大正、昭和、平成とい  
う長きにわたって営々と続  
けられて来たことから、累  
積している金額と人数は、  
莫大かも知れません。しか  
し、各年度の受賞者数の増  
員と受賞金額の増額がなさ  
れることを期したいもので  
す。

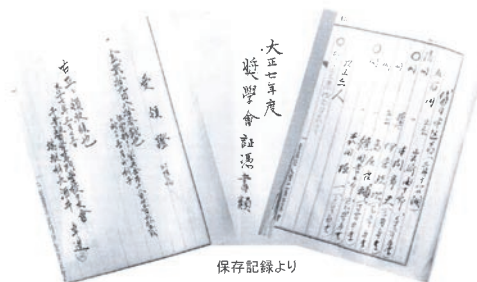
一方、医学・薬学に関わ  
る研究に従事している研究  
者については、研究助成金  
を付与してあります。助成  
金の使途明細報告と一年間  
の研究成果の報告をいただ  
いておりますが、その他の制約

なお、猪之鼻奨学会の運  
営は、千葉大学における医

学と薬学系機関に所  
属する教授各位と名  
誉教授諸氏によるポ  
ランテータ活動を基  
本としております。

事務職員の雇用や業  
務上の諸経費は、基  
本財産から生じる預  
貯金金利でまかなわ  
れております。そこ  
で、皆様からの寄付  
金が、あくまでも、  
奨学金や受賞金に充  
当されるわけです。

以上、猪之鼻(亥鼻)に  
咲いている一輪の花が、い  
つまでも慈しまれ、その花



保存記録より

ご寄附にご賛同いただける方は  
下記口座にお振込みください。

寄附金は税控除の  
対象となります

千葉銀行 本店営業部  
口座番号 3397281  
口座名  
公益財団法人猪之鼻奨学会 会長 鈴木信夫

または、事務局にご連絡いただければ、振込手数料が無料の  
ゆうちょ銀行の払い込み票を送付させていただきます。

《事務局》  
〒260-8670  
千葉市中央区亥鼻1-8-1 (千葉大学医学部内)  
Tel & Fax 043-226-2509  
E-mail ishougakukai@chiba-u.jp



# 研修プログラム

## 心臓血管外科

千葉大学大学院医学研究院  
心臓血管外科

教授 松宮 護 郎 (大阪大・昭61)

近年、生活の欧米化、社会の高齢化などに伴い心臓血管疾患罹患率の増加が認められます。それとともに心臓血管外科手術は増加の一途をたどっています。内科領域で行われる血管内治療のみが増加し心臓外科手術は減っているのではと誤解されていますが、学会統計では過去10年間で心臓大血管手術数は40%以上増加しています。

千葉大学心臓血管外科でも手術症例は年々増加しており、5年前に比べ症例数は3倍以上になりました。内容の面でも、完全血行再建を目指した冠動脈バイパス術、可及的に自己弁を温存する弁形成術、心房細動に対するメイズ手術などを複合した手術が大半を占めており質の高い外科治療を行っています。大動脈瘤に対する血管ステント治療、慢性血栓性肺高血圧症に対する手術など他院ではあまり多くは経験できない

特徴のある症例も大学に集まっています。さらに重症心不全治療に関しては、外科手術に加え種々の機械的補助循環を組み合わせた高度医療を行っています。千葉県では唯一の植込み型補助人工心臓施設となっており、心臓移植認定施設も数年内に取得できる見通しで、重症心不全治療センターとして機能しています。

心臓血管外科の修練システムは、専門医制度が社会からも注目され、若手医師の手術経験がますます重要視されてきています。以前のような「見て盗め」では通用しなくなっており、当科では積極的に若手に執刀の機会を与えるよう努めています。卒業3年目の後期の血管吻合などを習得し、後半には簡単な開心術を経験できるようカリキュラムを組んでいます。他科では多くの外科手技が機械(自動吻合器など)に置き換わ

だに外科らしい外科、すなわち切ったり縫ったりという手技が一番残っている領域で、手術は大変ですが楽しさを実感できると思います。一方で、様々な人工臓器を使った治療、移植、再生医療など先進医療に触れる機会も多く、新しい外科治療法開発の可能性が多く残された分野であると思います。もう一つの大きな特徴は悪性腫瘍が対象になることがほとんどないという点です。循環器系の機能予後を改善することが目的であるため、症状、生活の質の改善といった手術効果が見えやすく、達成感を感じることができると思います。

また、心臓血管外科手術成績には、外科の技術のみでなく、麻酔、循環器内科、集中治療、消化器、代謝内分分泌、血液、感染などあらゆる臨床医学分野の総合力が効いてくるもので、特に重症例になればなるほどその傾向が強くなります。したがって心臓血管外科の修練により、おのずと循環呼吸管理をはじめとする全身管理に精通することになりますし、そうなれるよう教育をしています。我々と一緒に、やりがい、を共有し、新しい医療に挑戦してみませんか。多くの熱意あふれる千葉大学卒業生が心臓血管外科に興味を持ってく

ることを期待しています。

## 日本赤十字社 成田赤十字病院

院長 加藤 誠 (昭47)

成田赤十字病院は、昭和23年に日本医療団より日本赤十字社に移管されたことに始まり、以来60有余年にわたり、北総地域の中核病院として、救急医療・急性期医療体制の充実に努めてきました。病床数719床、32診療科を標榜しており、医師・歯科医師142名、初期臨床研修医30名が在籍しています。

地域医療支援病院、地域周産期母子医療センター・救命救急センター及び災害拠点病院等多くの指定を受けて、地域に密着した医療事業を展開しています。また、全国に3箇所しかない特定感染症指定医療機関として、特定感染症病床を2床有し、感染症の脅威に対応するため、即対応できる体制を構築しています。さらに、千葉県唯一の赤十字病院として、国内外の医療救援活動や保健衛生活動等、医療社会事業を積極的にを行っています。

本院の初期研修プログラムは、初期研修一般コース12名、小児科コース2名の合計14名です。最近では100%のマッチ率で推移しております。これに加えて毎年千葉大からの、たすき掛けプログラムを2名程度受け入れております。本院の初期研修の特徴は一年次に内科6か月、外科3か月、救急集中治療部3か月の研修が必修となっていることです。この間に実臨床に役立つレクチャーを、早期に10回程度行い、研修初期に困難を感じる事が少ないよう配慮されています。小児科コースは小児科医になるためのストレート研修で、最初の3か月に小児科を研修し、外科は希望により2年次に研修できる設定になっています。2年次には、将来の専門性に向けて自分でプログラムの考える時期ですが、病院の規模719床につき16名程度の研修医ですので余裕をもって希望のプログラムを考えることができます。当院は救急患者数が年間20000人を超え、集中治療部が活躍す



る急性期病院ですが、豊富な症例、最新の医療機器等を誇るだけでなく、屋根瓦式指導体制が充実するよう、研修管理体制が充実するよう、のミートイングを頻繁に行い調整しています。地域医療については、多古中央病院や近隣の在宅診療を積極的に進めている施設、全面的な協力を得て充実した研修を行っています。

当院の千葉大学医学部卒業生は70名で以下のとおりです。  
脳神経外科：加藤誠(昭47、病院長、中村道夫(昭62、第一脳神経外科部長)、砂岡宏和(平24)、内科：蓮沼桂司(昭55)、松本一曉(昭36)、柳澤孝夫(昭51)、脇田久(昭56、副院長)、松尾哲(昭56、糖尿病・内分泌代謝内科部長)、青墳信之(昭59、第一血液腫瘍科部長)、森尾比呂志(昭60、総合内科部長)、志賀孝(平元、リウマチ・アレルギー内科部長)、福田和司(平5、第一消化器内科部長)、増田真一(平5、血液腫瘍科副部長)、万代恭史(平14、消化器内科副部長)、村山太一(平21院)、橋香穂里(平14、糖尿病・内分泌代謝内科副部長)、仲村彩子(平



23)、古矢裕樹(平24)、柴宮明日香(平25)、麻醉科・江沢里花子(昭56、第一麻酔科部長)、藤井りか(平4)、長谷川誠(平23)、放射線科・岡田淳一(昭57、放射線科部長)、島英樹(平3、放射線科副部長)、町田南海男(平4、放射線科副部長)、泌尿器科・菅原翔(平23)、精神科・佐藤茂樹(昭50)、赤田弘一(平8、第二精神神経科部長)、小池香(平10、精神神経科副部長)、神経内科・鈴木由利子(平6、神経内科部長)、米津慎宏(平16)、常山篤子(平22)、心臓血管外科・焼田康紀(平22)、諫田朋佳(平24)、小児科・眞山和徳(昭47)、五十嵐俊次(昭61、第一小児科部長)、野口靖(平2、第二小児科部長)、高橋聡子(平18、小児科副部長)、小泉奈美(平24)、石田茂誠(平25)、森香子(平25)、耳鼻咽喉科・根本俊光(平2、第一耳鼻咽喉科部長)、大塚雄一郎(平7、第二耳鼻咽喉科部長)、梶山由佳(平21)、石田ちひろ(平25)、産婦人科・杉田達哉(平5、第二産婦人科部長)、金子明夏(平21)、林伸彦(平23)、検査部・野口博史(昭50)、形成外科・加地竜士(平14、形成外科部長)、救急部集中治療科

中西加寿也(昭61、救急・集中治療科部長)、奥怜子(平14)、山地芳弘(平22)、栗田健郎(平23)、眼科・宇高靖(平14)、外科・石井隆之(昭58、副院長)、清水善明(昭63、第一消化器外科部長)、西谷慶(平4、乳腺外科部長)、清水公雄(平8、外科副部長)、坂本敏哉(平24)、吉住有人(平25)、初期臨床研修医・白川隆介(平26)、田村百合(平26)、文田貴志(平26)、伊東千尋(平26)、岩崎龍太郎(平27)、尾崎航(平27)、築野一馬(平27)、多田歩未(平27)、宮崎文平(平27)

**国立病院機構  
千葉東病院**

副院長・千葉大学臨床教授

国立病院機構(NHO)千葉東病院は、平成16年に国立療養所千葉東病院と国立佐倉病院が統合してできた、千葉市中央区にある病院です。2つの病院の持ついた機能に新たな機能を加え、千葉の医療に貢献できる病院として成長してきました。病床数は427床であり、内科系では、腎臓、糖尿病・内分泌・代謝、神経、呼吸器、リウマチ・アレルギー・膠原病を、外科系では、移植(腎臓、膵臓、脾臓)、一般・消化器外科、整形外科、形成外科、眼科、泌尿器科、麻酔科、そして小児科、病理、臨床研究部で計45人の医師が在籍しています。これらの診療科が協力し合って、腎疾患、神経難病、糖尿病、呼吸器、



千葉大プログラム、千葉県立病院群プログラム、千葉県NHO4病院プログラムから研修医を受け入れていきます。千葉には当院の他に、千葉医療センター、下総精神医療センター、下志津病院の4つのNHOの施設が存在し、4病院プログラムでは、基幹施設の千葉医療センターを中心に各施設の得意とする分野を研修できるプログラムを構築しております。後期研修に関しては、内科学会(教育関連病院)、外科学会、整形外科学会、小児科学会、腎臓学会、

糖尿病学会、透析医学会、呼吸器学会、アレルギー学会、リウマチ学会、神経学会の研修指定病院となっており、各領域の専門医を指す若手医師を受け入れており、学会発表の支援体制も整っています。また、千葉以外の研修医も積極的に受け入れており、千葉大の医局出身以外の医師との交流ができることも特徴としています。

最後に当院に在籍するのはな同窓会会員の医師を紹介いたします。神経内科・新井公人(昭55、病院長)、吉山容正(昭61、部長)、伊藤喜美子(平11)、糖尿病センター・西村元伸(昭58、副院長)、関直人(平3、糖尿病センター長)。腎センター・永田真依子(平24)、土屋洋平(平25)。アレルギー科・松村竜太郎(昭56、部長)、大矢佳寛(平10)。呼吸器科・石川哲(平8)、水野里子(平11)、永吉優(平12)、野口直子(平18)。小児科・松村千恵子(昭56、部長)、小林雅代(平20)、升田真依(平22)。外科・西郷健一(昭60、部長)、丸山通広(平元、部長)、坪尚武(平元、臨床研究部長)、長谷川正行(昭62)、大月和宣(平2)、青山博道(平4)。整形外科・後藤憲一郎(昭63、部長)、勝見明(平2)、田原正道(平6)。泌尿器科・香村衡一(昭52)。形成外科・千明信一(平7)、眼科・今井直樹(平3)、麻酔科・崔俊人(平9)、放射線科・池平博夫(昭55)。臨床検査科・酒巻建夫(昭49)。

**西村元伸(昭58)**

**お知らせ**  
ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp

創造で、想像を超える。

すべての革新は患者さんのために





# 研修医だより

## 後期研修に臨んで

千葉大学医学部附属病院  
循環器内科



江口 紀子 (平23)

私は平成23年3月に千葉大学を卒業し、同年4月より東京都済生会中央病院で2年間の初期研修を行いました。平成25年4月より千葉大学医学部附属病院の循環器内科に入局し、関連病院である千葉県立循環器病センターと君津中央病院にて計2年間研修しました。本年度より千葉大学へ帰局しています。

循環器内科へ興味を持ったきっかけは、学生時代に3週間学外へ実習に行ったことでした。重篤な状態で来院された患者さんが治療によりダイナミックに改善していく姿を見て、純粋に心が動かされました。また刻々と変化していく患者さんの病態を心電図やその他の所見からロジカルに考察していく過程にも魅力を感じ

ました。

それを機に循環器内科へ強く惹かれるようになりましたが、初期研修時代は進路について非常に悩みました。その一つとして循環器内科で女性が働き続けることができるのかという疑問がありました。しかし当科へ入局し先輩の女性医師の先生方とお会いして、循環器内科医としてのキャリアとプライベートとの両立をしながら実践する姿を拝見することができました。

これは循環器内科という科が女性にとって困難を伴うのではないかと、とお考えの研修医の先生方にも、ぜひお伝えしたい点です。当科に限らず、女性であることが選択の幅を狭める要因にはならないと思います。

当科の後期研修は、基本的に1年間ごとに2カ所の関連病院で研修を積んだ後、後期研修3年目より大規模病棟業務に従事し、その後は各々循環器専門分野での手技鍛錬や研究に勤しむのが一般的です。ただしあくまでも一般例であり、その他の選択肢を希望すれば、最大限尊重してもらええる風土があります。

# 学生教育

## 2015年度

### 関東研究医養成コンソーシアム

#### 第六回 夏のリトリート 開催報告

医学部5年 大野 吉史

今年度の関東研究医養成コンソーシアム・夏のリトリートは、千葉大学が主幹校となり平成27年8月17日(18日)に、品川のアワーズイン阪急で開催されました。

本リトリートには、千葉大学・金沢大学・群馬大学・順天堂大学・東京大学・東北大学・北海道大学・山梨大学・横浜国立大学の教員および学生を合わせて76名が参加しました。これまでのリトリートを振り返ると、参加大学が年々増えており、規模が大きくなっていることを実感します。

本学からの参加者は、代謝生理学三木隆司教授、分子腫瘍学金田篤志教授、粘膜炎免疫学坂本明美助教、5年大野吉史、鈴木崇浩、松永雅世、林佑紀、吉村悟志、4年片岡晃希、中川友貴、山地袖帆、3年谷口絢、坪坂歩、2年石川凜太郎、齋藤奏、高橋満里菜、吉岡正揮、依田夏美の、教員3名および学生15名で、大野

吉史が本リトリートの学生代表を務めました。

リトリート1日目は、ポスター発表、特別講演、グループディスカッションが行われました。今年度のリトリートでは、2年生以上の参加者全員にポスター発表をお願いしました。ポスター発表前には各学生1分ずつのプレゼンテーションを実施し、その後は教員・学生を交えた積極的な議論が行われました。特別講演では、千葉大学医学部皮膚科の松岡悠美助教には「医学研究者のキャリアアップの難しさ・難しいから面白い」を、前千葉大学長の齋藤康名誉教授には「研究の意味すること」をそれぞれテーマにお話を頂戴しました。松岡先生の留学生活や齋藤先生の研究談を通して、キャリアパスを考えるきっかけになったとの声を多くの方から頂きました。さらに、今年度は特別講演後にグループディスカッション

を行いました。8名前後の教員・学生混合グループで、研究と学生生活との両立、キャリアプラン、研究の魅力といったテーマについて議論を深め、特に学生参加者にとっては非常に良い刺激になったようでした。

2日目は、築地散策および口頭発表が行われました。築地散策では、前日のグループディスカッションを通して仲を深めたグループで、朝の築地を楽しみました。口頭発表では、各大学より最大1名の学生が、自身が携わっている研究について8分間の発表を行いました。

本学代表としては、大野吉史が発表しました。発表後の質疑応答では、学生から積極的な質問が相次ぎ、大いに盛り上がりました。2日間のリトリートを通して、研究医を目指す学生同士の活発な議論ができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。低学年の参加者にとっても、将来のキャリアを考える一助となったものと確信しています。今後も本リトリートが研究医養成に貢献できる場として発展していくことを期待しています。





# 2015年国際交流・学生留学報告

医学教育研究室 国際交流・医学英語プログラム担当

山内 かづ代 (平11)

千葉大学は平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、医学部ではクリニカル・クラークシップ（臨床参加型実習、以下CC）交換留学をはじめとする先導的取組を行って参りました。平成28年度より導入されるチーム制に基づくカリキュラム改革によりギャッププログラムの導入が予定されており、これまでのグローバル人材育成の取組を更に推進し、国際社会で活躍できる次世代人材を育成するための留学プログラムの充実化が求められております。これまで医学部では海外協定校とのCC交換留学（千葉大学臨床実習との単位互換が可能なプログラム）、研究留学、臨床見学等のプログラムを構築し、千葉大学との協定校である米国・イリノイ州立大学シカゴ校、トーマスジェファソン大学、韓国・インジエ大学のほか、卒業生の主宰するワシントン大学放射線科、トロント大学呼吸器外科等と交流を行って参りました。平成26年度はドイツ・ライプツィ

ヒ大学から放射線科へCC留学生を1名、中国・天津中医药大学から免疫学、薬理学、病理学、医学英語の聴講留学生を2名受け入れ、米国・ボストン小児病院（脳神経画像研究）、シャリテ医科大学（脳神経基礎研究）、カリフォルニア州立大学アーバイン校移植外科（臨床見学）、ユタ大学放射線科（臨床見学）にも医学部学生を派遣しました。平成27年度からは新たにタイ・マヒドン大学からウイルス学および予防医学センターに2名短期研究留学として受け入れ、平成27年度は派遣18名、受入7名の交換留学の実績となりました（9月現在）。医学部プログラムの他にもIFMSA（国際医学生連盟）に加盟の学生が主体となり研究や臨床実習を中心とした積極的な交流を行っております。

今年度は複数大学からの留学生受入時期が重なったため、去る平成27年5月19日、おのほな同窓会館にて第3回Chiba Global Medical Educationセミナー・留学生シンポジウムを開催しました。「千葉大学医学部への留学で経験したこと、考えたこと」をテーマに韓国・インジエ大学（麻酔科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション学部受入）、ドイツ・ライプツィヒ大学（前述）、タイ・マヒドン大学（前述）の3～6年次医学部学生に自大学の医学教育プログラムと自身自身のキャリアプランも踏まえ発表していただきました。全員母国語は英語ではありませんが、高い英語コミュニケーション能力を持ち自大学および自国の歴史と医学教育システムを熟知した上で留学の場で経験した内容や意見を堂々とプレゼンテーションする姿には感銘を受けました。質疑応答も活発であり、本学の学生、教員にも良い刺激となったことと思います。参加者は教員・医師30名、学生15名、職員5名の計50名で、セミナー後アンケートでは95%が有意義であったと回答し、76%がインジエ大学のプレゼンテーションが印象に残ったと回答しています。その理由として発音がとても良く堂々としていた、日本と韓国の医学生生活の違いが判り易く表現されていたことが挙げられました。また、

自由記載では、日本の当たり前は世界の当たり前ではないということを感じた（教員・医師）、海外の学生の英語力と活気を目の当たりにして頑張らねばと思つた（教員・医師）、医学教育のキャリアラムについて各国の違いを知ることができたので、今後国際交流・留学等において役立つと思う（学生・2年）、このような機会が設けられ感謝している（学生・6年）等の意見が挙げられました。

医学部留学を推進する中での課題として、「高い英語コミュニケーション能力」および「英語による医学知識の理解」の必要性は年々高くなっており、客観試験（TOEFL, USMLE step等）を確実にクリアすることが各国医学部留学の条件となっております。本学では平成25年度から引き続き、1年次から医学部在学中の留学をキャリアプランに含めた英語客観試験の実施と対策、模擬患者を使い実践に即した英語による医療面接・身体診察演習等を必修授業として位置づけ、臨床留学希望者（4～5年次）を対象とした選択授業「医学英語・アドバンス」では海外の臨床実習参加を目指した英語医療面接、身体診察の反復応用演習、症例プレゼン

テーション演習を集中的に指導しております。本プログラムを経験した本学学生は派遣先大学からの高い評価を得ており、将来的にグローバル社会を支えるリーダーとしての活躍が期待されます。今年度、留学プログラム構築およびその準備教育のため同窓会からの多大なるご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げますと共に、千葉大学のグローバル化の一翼を担う本プログラムへのさらなるご指導ご協力をお願い申し上げます。



留学生シンポジウム おのほな同窓会館にて

協和発酵キリン株式会社  
http://www.kyowa-kirin.co.jp

**Commitment to Life**

グローバル・スペシャリティファーマ。  
抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。

**KYOWA KIRIN**



# ドイツでの臨床実習留学報告

千葉大学医学部6年 宮崎 裕大

私は今年度から開始された本学初のドイツ臨床実習プログラムに参加させていただき、首都ベルリンにあり、シャリテ医科大学 (Charité) で6週間実習を行いました。日本の近代医学は北里柴三郎先生や森鷗外先生方によりドイツから持ち帰られたことは有名ですが、諸先生方が学ばれていたのが Charité です。Charité は研究・臨床ともにヨーロッパを代表する施設であり、かの有名な Robert Kochをはじめ多くのノーベル賞受賞者も輩出しています。脳神経外科教室は Peter Valkoocz 教授が脳血管バイパス術で著名なだけでなく、脳腫瘍や脊髄手術も含め多い日には8件も手術するため、脳神経外科教室全体では年間4000件という圧倒的な症例数を誇ります。このような恵まれた環境の中で、手術見学などドイツ人学生の臨床実習を体験させていただきました。

本実習を通して最も印象的だったのが、ドイツ人医学生が日本の研修医と同様に仕事をしているという点でした。日本人医学生が実習中に採血など患者に侵襲的な医療行為を行うことはまれです。一方、ドイツでは採血や静脈ラインの確保は医学生の仕事であり、医師や看護師がそれらを行うところをみる機会はありませんでした。さらには上級医を伴わずにドレーンの抜去や抜糸などのより侵襲的な処置、HIV 抗体検査を含めた検査のオーダー、患者への心電図や採血などの結果説明、そして各種保険や退院時の書類作成などの病棟業務も医学生がこなします。つまり、ドイツ人医学生には日本の研修医と同様の権限と責任があり、立派な戦力として働きながら実臨床を学んでいます。一方で、日々の病棟業務に追われ外科での実習にも関わらず手術に参加できないため、教育機関である大学病院としては不十分な面もあると感じました。今後ドイツと日本の教育制度を比較することで、両国の教育システムが改善されればと思います。また、ドイツの実臨床で

は随所に合理化されたシステムを垣間見ることができません。例えば、日本の手術室の前室は一般的に1室ですが、Charité では2室あります。手術室内での手術中に前室の一方で次の患者の麻酔導入を行い、手術後の患者をもう一方の前室から運び出すことで手術間の無駄な時間を短縮するという合理的なシステムです。また手術時間を短縮するため日本人脳外科医であれば温存する小さな静脈も、視野確保に邪魔であれば迷わず処理していきます。この他にも議論の余地はありますが、日々のカルテを記載せずに患者サマリイのみで情報共有しておりました。そのため検査結果や画像、患者サマリイを閲覧するデータベースのみで実臨床を行っており、印象的でした。最後となりますが医療費の削減が切迫した社会問題である現代において、今後安全性を確保したまま医療の合理化を行うことは非常に重要だと思います。今回のドイツでの臨床実習で学ばせていただいたことを糧に、将来日本の医療の発展に微力ながら貢献できればと思います。



実習の合間にドイツ人学生とのコーヒープレイク

# トーマスジェフアーンソン大学 臨床実習留学を終えて

千葉大学医学部6年 福田 晃史郎

私は、2015年4月24日から5月22日の1か月間、アメリカ合衆国フィラデルフィアのトーマスジェフアーンソン大学 (TJU) 医学部の消化器内科と腫瘍内科にて臨床実習をさせていただきました。この留学の応募にあたり USMLE Step1 を取得し、日米間での治療内容や医師-患者関係、医療システムの相違点と長所・短所を理解して将来のキャリアパスを考える事、また Advanced medical English course で学んだ医学英語による問診や身体診察を実践して、改善点を見出す事を目的に臨んだ。USMLE Step1 は米国医師国家試験の最初の試験であり、基礎医学分野を中心とした試験である。基礎医学といっても出題形式は全て症例問題で、診断や必要な検査、治療を問われる内容であり、米国の医学生は基礎医学を臨床の現場と結び付けて学ぶことで、実践的な知識として身に付けている事を知り、臨床留学で非常に役立つ内容であった。別の角度

から基礎医学を学ぶことでより深く基礎医学を理解できた。実習内容としては、前半2週間は消化器内科、後半2週間は腫瘍内科での実習であった。消化器内科では内視鏡検査・治療と診察を見学させていただき、全身麻酔下の検査ではポリリープに対してポリペクトミーを



Japan Center director, Dr. Pohl と

実施し、嚥下障害の方にはボトックス注射で筋緊張を和らげていた。検査後には患者さんの待合室に行き丁寧に検査所見と質問に時間をかけて説明している様子が印象的であった。腫瘍内科では外来実習と病棟実習を回らせていただき、外来にて進行癌患者さんに対する化学療法や臨床試験について学び、病棟では患者さんの問診や身体診察を経験した。問診・身体診察では末期癌の患者さんに対する関わり方を考慮しながらの問診を経験し、わずかな期



間ではあったが医師・患者間の関係性を考える機会と

今回の臨床実習では、自らの英語能力の低さや期間の短さからTJUの医学生と同等の実習を行う事が難しかったが、米国の医療の

特徴と医学教育の現場を体験するという非常に貴重な体験が出来たと思う。米国の医療は各医師個人の人間性や責任感が医師・患者間の信頼関係を築き上げる要素であるという印象が強い。

病院の組織としての方針はあまり強くなく、大学病院であっても、医師がRNやnurse practitionerともに診療チームを作り、各診療チーム間に上下関係がほとんどない、自由度の高い医療が実践されていた。患者は自ら医師を選んで直接連絡を取り、患者本人の意向で自由に変更が可能である。

が大きく異なるためこの形態をそのまま取り入れる事は出来ないが、日本にも国民皆保険があり、各医療機関には精度の高い医療技術と患者を医療者全員で支える診療体制がある。米国の医療に認められる医師・患者間の強固な信頼関係の構築は、日本の制度の中でも実現できるものであり、私もこの深い関係性を実現できるように、目の前の患者に対して自分の持てるものを

### イリノイ大学 臨床留学を経験して

千葉大学医学部6年 小野 亮平

全て出して向き合っていたと思う。1か月間この何にも代え難い経験が出来たのは、医学教育研究室の山内先生、Dr. Salcedo、医学部学務国際交流部門の吉原様、この留学の受け入れに関わってくださったDr. Sato、Radi Yumiko様、その他多くの方々に支えられて実現したものであり、心から感謝申し上げます。有難うございました。

私は入学してからこれまでの間に、それぞれ短期間ではあるものの、2年次にアメリカ、3年次にポルトガル、4年次にカナダと韓国、5年次に3回アメリカに医学留学で渡り、今回アメリカのUniversity of Illinois at Chicago (以下UIC)へ1ヶ月間の臨床留学を経験させて頂いた。これだけ留学していると帰国子女かと思われるかもしれないが、私自身は帰国子女でもなく、かつ大学入学まで海外経験はなかった。英語で話した経験などともになかったが、大学入学時に

UICの留学に興味を抱き、6年間の目標としてこの留学を掲げようと決意し、それに向けて準備の側面も含めて様々な国に留学へ飛び出してみようと思ったことがきっかけである。今回幸いにも執筆の機会を頂いた事から、私なりの観点で留学の意義、そして留学から得られるものは何かをお伝えし、更に留学を迷っている後輩の背中を後押しできればと思ひ、簡潔に記させて頂く。

1つは英語力を磨きたいという強い思いがあったこと。日本国内においても英語は学ぶ事ができるかもしれないが、英語のみの環境に身を置く事は非常に重要で、実際に話さなければ使い方も分からないし、また意味を聞き取ってもらえるかも分からない。他人のフレーズを自分のものとして身につけることも多々あるし、早すぎて聞き取れない経験や伝えたいことが伝えられないもどかしさから英語を頑張ろうと思う機会も多かった。

2つ目に世界トップの方々と知り合う機会を得られること。これまでに千葉大学の卒業生でおられる、トロント大学胸部外科の安福和弘教授や、ユタ大学放射線科の葛島聡教授の元で1週間ずつ臨床実習を経験させて頂いた。世界の最先端を肌で感じる事ができ

たと共に、お二方ともお忙しい中でも技術開発や研究、次世代への指導もなされており、ロールモデルを見つけた事でモチベーションにも繋がった。

紙面の都合で簡潔に記したが、留学を悩んでいる後輩には、何よりも一度世界へ飛び込んでみることをお勧めしたい。私自身も英語ができない状態で飛び込んでみて、その中で成長し、かけがえのない経験を得ている。今しかできないこととして、留学を志す同志が増えれば幸いである。

3つ目に世界中の友人ができること。各国に行く度に、非常に優秀でユーモアに溢れた気の置けない友人達と知り合うことができ、今でも電話したりお互いの国に遊びに行ったりしている。英語がネイティブでないもの同士が第二言語を使って会話し、食事に行ったり遊びに行ったりすること

の楽しさというものは、決して日本には味わえないものだと思ひを感じているし、これが留学に魅せられる理由なのかもしれない。



UICにて、左からカナダ・筆者・ブラジル・ドイツの友人と



私たちは人びとの健康を高め  
満ち足りた笑顔あふれる  
社会づくりに貢献します。

TAIHO 大鵬薬品工業株式会社  
TAIHO PHARMACEUTICAL CO., LTD.  
http://www.taiho.co.jp



# 学内情報

## 亥鼻祭

2015年度亥鼻祭実行委員長

医学部4年 梅田 開

亥鼻祭は今年度で13周年となり10月31日、11月1日の開催となりました。両日とも晴天に恵まれ来場者は去年よりも多く約3000名の方々にご来場頂きました。こうして亥鼻祭が続き、地域の方に愛され続けておりますのも、ゐのほな同窓会会員の皆様をはじめとしたたくさんの方々のご協力あつてのことと存じております。実行委員一同、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

当日の様子についてですが、記念講堂でのステージ上での演奏やダンスサークルによる出し物、各部活ごとの出店テントで賑わいました。また看護棟内では様々な企画が催され、「身体ふしぎ発見」という企画では超音波検査を実際に使った実演や動物の臓器を使った循環器系の説明などを行い、生の医療現場を来場の皆様に親しんでもらえたと思います。「看護ノススメ」



企画では看護学部の学生が日頃の勉強の成果をまとめ来場者の方々に看護の現場について解説しました。来場者の方からの意見や日頃の感謝を伝える場所としても盛況でした。薬学部棟では、毎年行われている卒業生の方々による若手医療職の話の聞けるブースや、応急救護体験ブースが開かれました。

昨年度から変えた取り組みは、ごみ箱を一新し、看護棟内の見回り時間を増やしたことで清潔さを例年以上に保てたと思います。また、



た、来場者の方へ良かった点や改善してほしい点をあげていただくアンケートを実施したことで、今後の亥鼻祭をより良いものにしていくでしょう。

個人個人が企画で存分に個人力を発揮し、結果として亥鼻祭のキャンパス全体で一つのものを作り上げる、そのような亥鼻祭が開催されること

はとて有意義なことだと思えます。学生が地域の方や後援会、ゐのほな同窓会の皆様とふれあい、私たちが力を合わせ一つの大きなものを作り上げていることをお見せできる、そんな亥鼻祭に今後もご支援頂ければ幸いです。

後日、ご寄附を頂きました方々への御礼状とともに詳しい企画の内容等に関する報告書をお送り致します。今後とも亥鼻祭をよろしくお願い致します。



### 第58回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
硬式野球	聖マリアンナ医科大学	信州大学	東京医科大学	1回戦敗退
硬式テニス (男子)	福島県立医科大学	北里大学	慶應義塾大学	第4位
硬式テニス (女子)	横浜市立大学	秋田大学	旭川医科大学	ベスト16
ソフトテニス (男子)	岩手医科大学	旭川医科大学	群馬大学	予選リーグ敗退 (5位)
ソフトテニス (女子)	秋田大学	弘前大学	群馬大学	予選リーグ敗退 (4位)
卓球 (男子)	東北大学	昭和大学	北海道大学	ベスト16
卓球 (女子)	順天堂大学	秋田大学	岩手医科大学	予選リーグ敗退 (3位)
バレーボール (男子)	旭川医科大学	順天堂大学	信州大学	1回戦敗退
バドミントン (男子)	旭川医科大学	札幌医科大学	岩手医科大学	1回戦敗退
バドミントン (女子)	東京女子医科大学	秋田大学	信州大学	1回戦敗退
サッカー	信州大学	東京医科大学	筑波大学	ベスト16
バスケットボール (男子)	新潟大学	群馬大学	北海道大学	1回戦敗退
バスケットボール (女子)	秋田大学	日本大学	山形大学	2回戦敗退
剣道 (男子)	秋田大学	北里大学	順天堂大学・群馬大学	予選リーグ4位
空手 (男子)	札幌医科大学 自治医科大学 埼玉医科大学 慶應義塾大学	なし	なし	組手2回戦敗退
弓道	東北大学	信州大学	山梨大学	入賞なし
水泳 (男子)	慶應義塾大学	東北大学	信州大学	入賞ならず
水泳 (女子)	慶應義塾大学	東京女子医科大学	筑波大学	入賞ならず
ヨット	日本医科大学	慶應義塾大学	千葉大学	第3位
ゴルフ (男子)	埼玉医科大学	慶應義塾大学	北海道大学	第5位
ゴルフ (女子)	北里大学	慶應義塾大学	山形大学	第12位
ラグビー	信州大学	弘前大学	順天堂大学	ベスト8
第58回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果総合ポイント				
第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位	
慶應義塾大学	秋田大学	旭川医科大学	30位/36校	

卓球 (男子) ダブルスベスト8: 小野亮平・藤田教寛ペア  
バドミントン (女子) ベスト8: 齋木彩絵  
水泳 (男子) 100m平泳ぎ 第2位: 横山大騎

ヨット (男子) 第2位: 西織浩信・遠藤雄二ペア  
ヨット (女子) 第2位: 小川美咲・西川侑成ペア



Basic & Clinical Research Conference Basic & Clinical Research Conference Basic & Clinical Research Conference

# 第9回

## 開催のお知らせ

# ちば Basic & Clinical Research Conference

日時 平成28年2月6日(土) 13:20 ~ 17:10

場所 千葉大学医学部附属病院3階 講堂

千葉市中央区亥鼻 1-8-1 TEL: 043-222-7171

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置づけております。

総合司会 千葉大学医学部 5年 坂本真季子

### 13:20 ~ 開会の辞

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 教授 高橋 和久 先生

### 13:30 ~ 講座紹介

座長 千葉大学大学院医学研究院 疾患生命医学 教授 幡野 雅彦 先生

『公衆衛生学教室における研究の紹介』

演者 千葉大学大学院医学研究院 公衆衛生学 教授 羽田 明 先生

『麻酔科学は、全身管理学!』

演者 千葉大学大学院医学研究院 麻酔科学 教授 磯野 史朗 先生

### 14:30 ~ 学生発表

座長 東邦大学医学部整形外科学講座(佐倉) 准教授 中島 新 先生

千葉大医学部 5年 鈴木 崇浩

演者	医学部 2年	中務 由彦
	医学部 2年	依田 夏美
	医学部 4年	楽満 紳太郎
	医学部 5年	大野 吉史
	医学部 5年	西村 公太

### 15:30 ~ 休憩

### 15:40 ~ 特別講演

座長 千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学

教授 白澤 浩 先生

『乳がんに対するチーム医療

— Science, Art and Humanity —』

演者 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科部門

教授 中村 清吾 先生

### 16:50 ~ 表彰

千葉大学大学院医学研究院長 中山 俊憲 先生

### 17:00 ~ 閉会の辞

千葉大学大学院医学研究院長 中山 俊憲 先生

### 情報交換会

時間: 17:30 ~ 19:00

場所: 千葉大学医学部附属病院3階 職員学生食堂

会費: 教員 1000円、教員以外 100円

### 【世話人(敬称略)】

国立大学法人 千葉大学学長  
 国立大学法人 千葉大学理事  
 千葉大学大学院医学研究院長  
 千葉大学医学部附属病院長  
 千葉労災病院院長  
 千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学教授  
 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学教授  
 千葉大学大学院医学研究院 整形外科学教授  
 千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学教授  
 千葉大学大学院医学研究院 アレルギー-臨床免疫学教授  
 千葉大学バイオメディカル研究センター准教授

徳久 剛史  
 中山 晴昭  
 中山 俊憲  
 山本 修一  
 河野 陽一  
 横須賀 收勝  
 宮崎 和久  
 高橋 浩史  
 白澤 裕史  
 中島 裕史  
 坂本 明美

### 【事務局】

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 大鳥 精司

電話 043-226-2117 (内線 5303, 5304)

主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部

共催: ちば Basic & Clinical Research Conference 事務局  
(学生代表: 高橋満里菜)、千葉医学会、みのはな同窓会





# 課外活動団体だより

## 救急サークルC-I-T-A-T

医学部5年 代表 鈴木 崇浩

救急サークルC-I-T-A-TはChiba Training Association for emergency Treatmentの略で、顧問の織田成人先生(千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授)の下、亥鼻キャンパス内での一次救命処置(BLS)の普及を目的に活動しております。主な活動内容としては学生を対象としたアメリカ心臓協会(AHA)のBLSコースの準備と開催で、現在はAHA公認の学生BLSインストラクターが5名在籍しています。他大学の学生インストラクターとも交流・情報交換等をしながら、講習会で受講生がより良く学べるように試行錯誤しております。



能力試験(OSCE)に向けて、何度か心肺蘇生法(CPR)について学びますが、その実練習する機会はそれほど多くありません。病院実習が始まってからクリニカルワークショップで救急科を回らせて頂いた際に、初めて真剣に取り組んだ、という学生も少なくないのではないのでしょうか。『医学部に入ったのに、目の前で倒れた人に対してCPRも出来ない…』そんな状況を改善するためにC-I-T-A-Tは発足しました。月平均2回

千葉大学医学部では一年次や、四年次の客観的臨床

の講習会に加えて、亥鼻祭ではACLS勉強会と協力して、一般向けのBLS講習も行っています。また千葉大学の他学部生からも講習会の申し込みが来ており、今後は亥鼻キャンパスだけでなく、西千葉キャンパスにも活動の場を広げて、千葉大学全体のBLS普及に貢献したいと考えております。

先日行われた第1回全国医学部CPR選手権大会では、8月22日の関東・甲信越地区大会で準優勝、10月17日に行われた全国大会で15校中5位という結果でした。優勝は出来なかったものの学べたことも多く、今後は自分達ももっと研鑽を積みむことで、他の学生のスキルアップも目指したいと思えます。

歴史としては2年前に発足したばかりとまだまだ浅く、メンバーも6人と小さなサークルではありますが、今後とも頑張って参りますので、よろしくお願い致します。

### C-I-T-A-T役員

- 代表 鈴木 崇浩
- 副代表 中川 友貴
- 会計 齋藤 大之
- 主務 宮原 杏奈

## ヨット部の活動

医学部3年 主将 遠藤 雄二

千葉大学医学部ヨット部は1951年に千葉大学体育会ヨット部として設立され、後に医学部ヨット部として独立した歴史ある部活です。海ではストイックに速さを求めて練習に励む一方で、陸では部員全員が仲良く楽しく過ごすメリハリが特徴です。部員は全員が大学からヨットを始め、5年生と3年生、4年生と2年生でペアを組み、夏に行われる東日本医科学学生総合体育大会と関東医科学学生ヨットレースの優勝を目指して、切磋琢磨しながら練習しています。

今年度の夏の大会では、東医体、関東医科学学生ヨットレースの両大会で団体3位という結果になり、個人でも混戦の中、東医体では西織・遠藤ペアが2位を、医科学学生ヨットレースでは石原・林ペアが3位を獲得しました。優勝こそできませんでしたが、東医体の団体戦では数年ぶりのメダル獲得となりました。私たちが乗っているヨットは470級という全長4.7メートルの二人乗りヨットです。部員は、10月



から翌年6月にかけては稲毛のヨットハーバーで練習をして、夏の大会が近づいてくると大会の開催地である江ノ島に活動拠点を移します。

ヨット競技は自然を相手にするという点で他の競技とは大きく異なると言えるでしょう。安全に帆走するためにも、レースにおいて良い成績を取るためにも、天気や風、波の些細な変化に気を配らなければなりません。このことがヨット競技の非常に難しくまた楽しくやりがいのある点であると感じております。また比較的競技人口が少ないため、夏前に開催される練習レースではオリピックに出場

したことがある選手などが一緒のレースに参加しており、間近でオリピックセラーを見る事ができる魅力などもあります。私たちの部活には専任のコーチがおらず、選手を引退された6年生の先輩方に練習を指導していただいております。また夏の大会になるとたくさんのOBの先生方が応援に来てくださいます。

来年こそは夏の大会で優勝できるよう今後も部員一同、一生懸命練習に励んでいきたいと思っております。

- ヨット部役員
- 主将 遠藤 雄二
- 副将 西川 侑成
- 会計 生嶋 光



# ラグビー部

医学部5年 主将 大山 秀平

千葉大学医学部ラグビー部は1974年に設立された部活です。昨年と今年は見護学部、薬学部のプレイヤーも入部し、現在では坂本監督の下、プレイヤー37名、マネージャー14名で活動を行っております。

部活は月曜日と水曜日の夜、土曜日の午前中に行っており、その他自主練としてグラウンドに集まる機会もあります。部活中は全員がラグビーに集中し、引き締まった雰囲気の中、互いに声をかけたり指示を出したりして切磋琢磨しスキルを向上させています。一方で部活以外の時は明るく楽しい雰囲気でも盛り上がり部員同士の仲もよく、スイッチのオンとオフがはっきりしているのも伝統的にこの部活の良いところです。

主な活動としては、公式戦は夏の東日本医科学学生総合体育大会と秋の関東医歯薬ラグビーリーグ、それ以外では新歓や通い合宿、OB・OG会などがあります。東医体は、昨年度はベスト4、今年度はベスト8でした。医歯薬リーグは現在2部リーグに所属し、1部昇格を目標としています。

OB・OG会では多くのOB・OGの方々がお越しください様々な話を伺うことができ、また試合を行った後はアフターマッチファンクションという形で対戦相手とも交流していて、ラグビー部を通じて輪が広がっていることを実感いたします。

チームプレーの競技であるラグビーでよく使われる言葉に、“one for all, all for one.”というものがあります。私達の部活が監督やOB・OGの方々をはじめとして大変多くの方々の協力のおかげで成り立っている一方で、自分の献身的なプレーは、ほかのプレイヤーを助けるだけではなく、ひいては部員全員や応援してくださる全ての方々の思いに込めることにもつながります。

この部活は、ほかの人のために自分が働くことの大切さや重要性を知ることができ、また様々な人に支えられていくことが実感できる素晴らしい部活です。この伝統を受け継ぎつつ、さらに良いものになるよう部員一同精進して参りますの

で、これからもラグビー部へのご理解、ご協力のほどよろしく願いたします。  
ラグビー部役員  
主将：大山秀平

副将、FWリーダー… 星大地  
主務：増田峰登  
副務、会計：佐久間亮輔  
BKリーダー：伊藤聡之

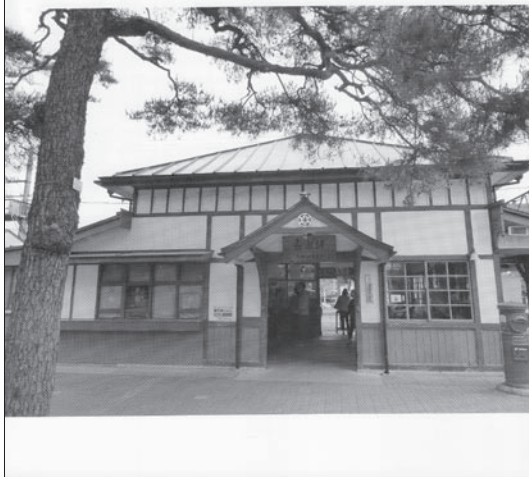


## 埼玉 むのはな会 平成27年8月 第16号

### 埼玉 むのはな

千葉大学医学部 むのはな同窓会 埼玉県支部

第16号 2015年8月  
(修正版)



#### 埼玉 むのはな 第16号 2015年(平成27年) 目次

<b>ご挨拶</b>	千葉大学医学部 むのはな同窓会 埼玉県支部長就任のご挨拶	吉川 広和 …… 1
	千葉大学医学部 むのはな同窓会 埼玉県支部長退任のご挨拶	伊藤 敏夫 …… 2
<b>埼玉県支部総会ご案内</b>	お知らせ(総会開催日の変更)	吉川 広和 …… 3
<b>お祝</b>	白寿を迎えて	水間 正冬 …… 4
	米寿 私の思い出	菊地 善秀 …… 7
	思い出	山森 義夫 …… 9
<b>喜寿</b>	旅行と交通の今昔	加藤 元一 …… 10
<b>遺稿</b>	生涯の友・砂山 孝君のこと	植山 壽雄 …… 15
<b>話の広場</b>	随想 作家と病氣	四家正一郎 …… 19
	短歌 日々の診療カルテ(其三)	根岸ゆきのり …… 22
	随想 カセットテープ	松本 生 …… 29
	随想 むのはな同窓会を考察する	吉川 広和 …… 32
	保険審査やおにらみ	磯訪 敏一 …… 34
	個人旅行を楽しむ	小川 富雄 …… 37
	三角縁神獣	得丸 幸夫 …… 42
<b>趣味</b>	マラーの音楽(第4回)	上野 泉 …… 43
	連載・天体写真録(5)	杉浦 敏之 …… 58
<b>近況報告</b>	久慈総合病院の近況	船松 武史 …… 63
	地域包括ケア病棟を新設	木村 道雄 …… 64
	千葉大学関連施設としての 深谷赤十字病院の現況	伊藤 博 …… 65
<b>ゴルフ部から</b>	第13回ゴルフコンペの報告	林田 和也 …… 68
<b>埼玉県支部から</b>	ご挨拶とお祝い	中村 勉 …… 70
	平成26年度埼玉県支部決算報告	中村 勉 …… 70
	埼玉県支部規約	中村 勉 …… 72
	お祝い 原簿整理	中村 勉 …… 73
	表紙写真のご案内	野口 哲夫 …… 74
	編集後記	野口 哲夫 …… 75



随想

50数年ぶりのホーム・カミング

新堀 茂 (昭38)

「故郷は遠くに在りて想うもの」と「かなたへ、いざ君と帰らまし」との間合いを私の心は揺れながら、この日を迎えた。結果は端的に言えば「この馬鹿野郎共奴！」と決然として席を蹴る破目に陥ったが、まあ、それはそれとして、大いに楽しい一日でもあった。更に胸の内を明かせば、そう言った外交辞令とは別に素漠たる想いも去来したものだ、まあいいでしょう。

卓球、囲碁、そして毎晩家内のピアノに合わせてサキソフォンを吹いている所為で、疲れ果てて診察中に時折居眠りしてしまう。

最近では遠出する時は不安なので、何時も家内のスカートの裾に掴まって歩く。

尤も近頃は躁状態であるが故に、「亭主躁なら上さん鬱よ」の例にもれず、完全な鬱なので、逆に私のベルトを離さずについて来る。

10月4日(日)千葉駅に着き、憧れのモノレールに乗り、葭川駅近くのビルのパーティー会場へ。懐かしい顔、顔、面、面。

確かに、よる年波ですっかり背はちじんだ爺さん婆さんばかり。まあこれは仕方ない。没有法子！(北京語) Apa boleh buat! (マレー語) マイ ペン ライ!

(タイ語、スペイン語では Rematado) 以上どれも「しようがないなあ」の意。庶民は皆溜め息付いた後、こ

う咳いて、諦めながら生きていますのでしよう。

昭和38年卒組は不出来と言ふ事になっているが、実

際は最高の学生が群をなしていたのではなからうか。教授や大病院の院長を務めた人がウジャウジャいる。大病院を創設した級友もかなりの数になる。だからどうしたと言う話だが、褒章を授与された人が4人も出たし更に来年授与される人もいる筈だ。中でも旭日双光章を授与された嶺井進君は凄い。沖繩で始めて脳外科手術を施行。後に専門病院を開業して成功。3院の病院とホテル、そして最近近代的な医療施設をもつ巨大なマンションを経営、実業家としての才も花開いている。私は密かに沖繩のベン・ケーシーと呼び兄事していたものだ。私は何度となく沖繩に行つては、御馳走になったり、豆腐饅を送れとか、アップル・マンゴ

ーを呉れとか、その他諸々。今猶一寸甘え過ぎだったと赤面する想いが蟻ついているのは、一昨年沖繩での嶺井君主催の38会でのことだ。今は亡き守矢和人君と私でピアノとサクソスの合奏するからパーティー会場にピアノを用意してくれと頼み込んだ。さて当日、定刻に遅れたので慌てて会場に入るとスタインウェイのグラ

ンドピアノがデーンと据えてあつた。打ち合わせであつた曲を私は吹き出したのであるが、大失敗。弁解がましいがその日始めて手にしたヤナギサワの名器に馴染んでいなかったのだ、まともな音が出ない。慌てれば慌てる程おかしくなる。それを救つて呉れたのは、守矢君のピアノの弾き語り「勝手にしやがれ」だ。私も勝手にしやがれ！と吹きながらすごすと自席に戻る。隣に座る家内は他人の様に装つて、知らん顔している。It's no use trying. これは2年前の出来事。ではあるが、些か心に疼きを感じる。

守矢君との付き合いにもう少し触れておきたい。私はカルテットを組んでいた。即ち男性4部合唱をやつていた。第一テナーは私、第二テナーは早世された田辺義次君、バリトンは浅野尚君、バスは守矢君。私以外は皆本物のミュージシャンだ。私はファルセットなら、かなり高い音は出るが、地声ではF#までしか高音は出せない。浅野君はG#まで音が出る。マザコンのこの男は今回も自作の母の歌を披露した。さもないメロディだが、7歳の今も音階は安定しているし、高音も良く伸びる。流石に立派なものだ。私はカラオケを

含めて人前で歌う事をやめた。少しでも声がかすれたら、音程が狂つたりする事を恐れるからだ。第一テナーだった者としての誇りが許さないのだ。私がカルテットに求めた音楽はシャウト系のアレンジ、例えばブラタズミみたいな曲だ。他の連中はオーソドックスな男性4部合唱だった。だからターク・ダ

ックスの二番煎じに終わってしまった。それで良かったのだからとも思う。もしあの時、ニュー・スタイルがヒットしていたら私達の人生は変つてになっていたかも知れない。Paviana (イタリア語) ともあれ嶺井進君、旭日双光章授与おめでとう！万歳！万歳！万歳！ 次回に続、請う御期待

千葉県医師会への入会を！

さうごうゴールドカードが取得できます

千葉県医師会学術担当理事 日比野 久美子

私は、千葉県医師会の学術担当理事日比野久美子と申します。実は、私の亡父も一外科出身のものはな同窓会会員でありました為「ものはな同窓会」は身近な存在でした。生前、亡父が大変お世話になりました御礼を兼ねて一筆書かせていただきます。先生方の多くは医師会にすでに御入会されていることとは存じますが、千葉県は「勤務医の医師会入会率全国最下位」という不名誉な現況をご存知でしょうか。医療訴訟の際の賠償保険など皆さんのメリットがあるにもかかわらず、医師会とは空気のような存在で、

に致しました。お買い物をしなくても、さうごうの駐車場が3時間無料になるほか、ロイヤルサロンの利用や自宅宅配のサービス、高額商品の割引も応相談、と良いことづくめ……。勿論、入会金、年会費無料です。現在、県医師会未入会の先生は県医師会入会と同時に、また、県医師会に入会していても、さうごう千葉店のゴールドカードを持っていない方や、ミレニアムカードを持っていてもゴールドではない方(たとえば銀カードなどを保有)にもゴールドカードは付与されることになりました。詳しくは千葉さうごう 豊崎様(043-245-8884)までご連絡下さい。そして、この特典を、ぜひ、お知り合いの県医師会未入会の先生や、勤務医、研修医の先生方にお伝えいただき、1人でも多くの先生方が県医師会に入会されることを願っております。尚、県医師会は県民との交流プログラムを実施しており、昨年11月3日の第16回千葉県医師会学術大会県民公開プログラムには500名を超える方々にお集まりいただきました。今後とも、県医師会をよろしく願います。



# 会員から

## スペイン 医学史を巡る旅

杉田 克生 (昭54)

スペインは地方ごとに「国」があると言われる。カタルーニャ州都のバルセロナも独自に歴史と文化を育んでいる。言語は、スペイン語(カステイリヤ語)とは別にカタルーニャ語があり、憲法上ガリシア語やバスク語も含め公用語として4言語が併用されている国である。建築家ガウディは晩年強烈なカタルーニャ主義に目覚め、国王に対しても終始カタルーニャ語で語りかけたことは有名である。今回は2015年9月に企画した「スペイン医学史を巡る旅」で立ち寄ったバルセロナから、ニューロン説で有名なラモン・イ・カハールが教鞭をとったバルセロナ大学医学部(旧サンタ・クルー病院)と世界遺産であるサン・パウ病院を紹介する。

旧サンタ・クルー病院はバルセロナの大通りと言わなければならない所にある。現在は市立図書館とし

られている(写真)。当時のスペインでは、真つ当な研究者は自宅に研究室をつくる慣習があった。

て利用されているが、正門を入ると広い中庭があり、古色蒼然とした風格のある建物である。図書館への階段中央部の端には、鼠径部の傷を指差すペストの聖人「聖ロココ」の像がある。上記のガウディが市電に轢かれて搬送されたのはこの旧サンタ・クルー病院であり、入院した部屋も見学可能である。研究熱心なカハールは、この病院から歩いて数分の所に居を構えた。自宅跡(フータリアート通り7番地)には、「この家でニューロン説を見出した」と説明したプレートがかけ

一方、サン・パウ病院は2009年まで病院として使用され、その後老朽化のために閉鎖していたが、2014年から見学可能になった。銀行家パウ・ジルの遺言により、人口増加が著しいバルセロナ市民の幸せのために、市内の6病院(その一つが上記のサンタ・クルー病院)を統合して、新病院を建設するべく14万5千㎡の広大な敷地を確保した。リュイス・ドメネク・イ・ムンタネー(1850

1923)が設計し、1902年から1930年にかけて建設された。「芸術には人を癒す力がある」というムンタネーの信念に基づき設計し建設したという。広い庭内に散在する各病棟

の華麗な外観を見るだけでも気持ちよくなり、医療の中で、「care」と「cure」の有り様を考えさせられる。ちなみに建設したムンタネーは、教え子であったガウディの優れた才能にラ

聖家族聖堂」である。バルセロナはガウディやムンタネーらが才を発揮した建築で有名だが、ピカソやダリが活躍した所でもある。ピカソ美術館には「こども絵は描いたことがない」とする天才ピカソの「科学と慈愛」を見ることが出来る。この絵画中、医師は「科学」修道女は「慈愛」を象徴している。「千葉医学」3つの教え「獅胆鷹目行以女手」が一瞬脳裏をかすめた。

生に恵まれ、卒業した昭和54年から「郷士会」と称し同期会を時に催している。今回のスペインの旅で、画家ゴヤの母親はアラゴンの下級貴族、Eudago(郷士)の家柄であることを知った。Eudagoとは、hijo-alagoの合成語であり、alago(なにがしか)の財産を持った家のhijo(息子)の意のことである。日々母校を思い至ること乏しき身ではあるが、ゐのはな郷士としてなにがしかの誇りを持つて仕

事に励みたい。なお、ゐのはな同窓会のHPオンライン会報でもバルセロナやマドリッドの医学史関連施設を動画で紹介する予定である。

お詫びと訂正  
170号  
17頁  
三本の指の会 写真2列目  
木村道雄 ↓ 木村 純  
お詫びして訂正させていただきます。

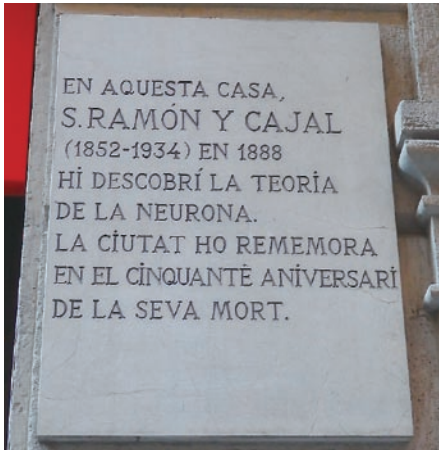


写真 カハール旧自宅玄関脇の壁に取り付けられたプレート「この家でカハールが“la teoria de la neurona”を見出した」と書かれている

# 肝臓学の新時代に向けて

The 52<sup>nd</sup> Annual Meeting of Japan Society of Hepatology

## 第52回日本肝臓学会総会

2016年5月19日(木)・20日(金)

横須賀 収 千葉大学大学院医学研究科 消化器・腎臓内科学 教授

ホテルニューオータニ幕張、東京ベイ幕張ホール (千葉市美浜区)

<http://accessbrain.co.jp/jsh52>

本 部：千葉大学大学院医学研究科 消化器・腎臓内科学内 〒260-8670 千葉市中央区美浜1-6-1 TEL: 043-226-2083 FAX: 043-226-2088  
運営事務局：フロンティアオフィスアクセスブレイン 〒113-0034 東京都文京区湯島3-31-5 YUSHIMA3315 2F・3F TEL: 03-3819-3032 FAX: 03-3819-5015 E-Mail: jsh52@accessbrain.co.jp



# 第40回ゐのほな美術展開催

島田 哲男 (昭41)

第40回ゐのほな美術展は、平成27年10月5日(月)より10月11日(日)まで例年通り銀座ギャラリー向日葵にて開催されました。

出品者、出品作品名は表の通りです。今回は12名の先生方の参加をいただきました。初出品は宮園千代子先生です。

が来廊され、遅くまでビデオ撮りなどやっていただきました。同日6時から近くの銀座アスターで、神山英明先生、宮下久夫先生、吉川廣和先生、橋本英明先生、宮園千代子先生、榎本貴夫先生、島田哲男、7人で暮れゆく銀座再開発通りをながめながら、親しく交流いたしました(伊藤進先生、石井邦夫先生、川村孝子先生、吉田克彦先生、野口眞利先生は残念ながら欠席されました)。

会期中は初日から天気めぐまれ、最終日まで穏やかな天気がつづき、来廊者かな去年より大幅に増えました(記帳来廊者123名、昨年87名)。来廊者はそれぞれ個性豊かな作品にゆっくり目を通し楽しまれました。会場は30年来全くかわらないビルの2階ですが、会場をとりまくビル群の再開発建設の真つ最中で、周辺環境変化に皆驚かれています。



写真右から  
前列：川村孝子、宮下久夫、神山英明、吉川廣和、島田哲男  
後列：宮園千代子、橋本英明、榎本貴夫

席上、次回より世話人代表を橋本英明先生にお願いすることに出席者全員で確認いたしました。来年も41回展を同会場で同時期に行う予定です。どうぞ奮ってご参加くださるようお願い申し上げます。

第40回ゐのほな美術展世話人：宮下久夫、野口眞利、島田哲男、橋本英明  
事務局  
〒104-0061  
東京都中央区銀座5-9-13  
銀座菊正ビル2階  
ギャラリー向日葵  
斉藤誠一  
TEL...  
03-3573-1680

## 第40回 ゐのほな美術展 出品作品

氏名	卒業年	作品
1 島田 哲男	昭41	①Hi! ②想う ③上海
2 榎本 貴夫	昭47	①兵馬俑 ②万里の長城 ③長瀨
3 石井 邦夫	昭26	①浦和競馬場 ②鴛鴦と貝 ③2才の伸忠と朝の挨拶を交わす愛犬ハナ
4 吉田 克彦	平4	①航海
5 伊藤 進	昭26	①ラ・フランスと柿・栗 ②チューリップと果物 ③秋 ④水差しと果物
6 野口 眞利	昭40	①平潟港 ②淋南の海 ③赤い家
7 吉川 廣和	昭40	①五月の金色堂A ②五月の金色堂B ③きぬがわ
8 川村 孝子	昭36	①パソジャビスーツのインド女性 ②ルノワール「浴女」—水彩による模写 ③五月の八ヶ岳 ④レイキャビック(アイスランド)の郊外にて
9 宮下 久夫	昭38	①飛騨高山陣屋 ②飛騨の街並み
10 橋本 英明	昭45	①ある事情 ②トルヴィーの海岸 ③Stアンヌと聖母子像(ダヴィンチ模写)
11 神山 英明	昭22	①静物
12 宮園千代子	昭45	①スイスの思い出 ②石のベンチ

(順不同)

## 27年度会計報告

27年度取入	
同窓会賛助金	200,000
会員出品料12名	360,000
合計	560,000
27年度支出	
会場費	432,000
案内状印刷・郵便・通信費等	49,000
受付・搬入出経費	90,000
合計	571,000

同窓会ホームページのオンライン会報、福祉関連情報で、ゐのほな美術展出品作品の鑑賞ができます。

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

## 千葉大学医学部附属病院 成田赤十字病院がん治療センターを開設

平成27年7月1日、成田赤十字病院内に開設しました。

センター長 千葉大学大学院医学研究院  
呼吸器病態外科学  
千葉大学医学部附属病院  
呼吸器外科  
教授 吉野 一郎  
副センター長 千葉大学医学部附属病院  
特任教授 澁谷 潔  
(成田赤十字病院 呼吸器外科部長)

開設場所 成田赤十字病院 A棟8階

**APASL2016**  
アジア太平洋肝臓病学会議年次総会

APASL 2016  
Asian Pacific Association for the Study of the Liver  
Modern Hepatology

グランプリホテル新高輪(品川)  
2016年2月20日(土)~24日(水)  
会長 横須賀 収



# 同窓会員著書の紹介

野尻雅美(昭36) 著

## 余生も楽しく美しく

―高齢者のQOL(人生の質)、QOD(死の質)―  
マリオ企画出版 定価1300円(税別)



野尻 雅美 (昭36)

座標理論が抜けてしまおうので、それはできないと、前書の中核になった章は再掲することになりました。

本書は、私の研究生活の後半のまとめであり、高齢者の余生の生き方と死に方について思索し提言したものです。3年前にも同じ様な趣旨で「高齢者のQOLプロモーション―人生、楽しく美しく―」を出版しました(著書の紹介は同窓会報164号)。これを機に講演依頼がいくつもあり、その都度、バージョンアップを重ねた結果、私のQOL(Quality of Life)論はさらに深化してきました。その一つがQOD(Quality of Death)論です。そして全ての深化した部分を取り出し整理し、新たな経験も加えて、再び世に問うことにしました。

本書ではこのQOL論の延長線上にQOD論を展開させたのです。高いQOL生活をするのが、高いQODで逝くことにつながります。また高齢者の新しい死の概念を提示し、心が自立していると満足死となり、そうでないと孤独死になると提言しました。従って、高齢者の余生を楽しく美しくするには、「心の自立」がキーワードになります。フランスの外科医で生理学者、ノーベル賞受賞者のアレキシス・カレルは、晩年の名著「人間、この未知なるもの」(英語版「Man, the Unknown」)(1968年)の中で、人間の医学研究は人間の機械論的研究ではなく人間の本质研究であるべきであると力説しています。そして人間復興の条件は、量より質、物質より精

神の重視であると言っています。ここでのカレルの精神とは本書の「心」(Spirituality)です。この「心」が重要な要素なのです。

これによりカレルの言う「人間の本质」は、私のQOL(人生の質)とほぼ同義であると解釈できます。そこで私の提示したQOL座標を用いての医学研究は、80年前よりカレルが強力に後押ししてくれていた人間研究なのです。この視点に立ちますとQOL研究とは本来の医学研究、すなわち人間研究であると言えます。

QOLからQODを論ずることになりますと、後期高齢者の半ばにある私の人生観と死生観を語る必要に迫られました。現時点で私の思索の結果は、「人生観が「人生、楽しく美しく」で、死生観は「余生も楽しく美しく」です。ところがQODを語り出したところ、私はすぐに深い霧に囲まれてしまい、不安と期待の中で立ち往生しています。霧が晴れるのを待つのも一法ですが、私自身の余命と相談したところ、今回はこのホワイトアウトの状態の記載のみで良しとすることです。

## 花井透(昭41) 著 花井俊子 挿画・書

光陽出版社

大塚 明彦(昭41)



医協会の会長時代に協会の講演の演者を依頼されたり、患者さんを紹介したりされたりの関係であったが、先生が俳人であったのは全く心当たりがなかった。

卒業後40年以上近くで仕事して来た長友から、立派な「句集」を送っていただいた。花井先生とは41年卒の同級生であり、彼が保険

私は専門課程に入って加賀谷凡秋先生の門下生となり、卒業まで句会「やはぎ」に属し毎月の句会や吟行があり、その頃、三枝一雄先

生、故吉川武彦先生や村山さとし先生のご指導もいただいたが全く上達しなかった。その頃全国的に流行風邪の様に拡大した、医局解体運動が切っ掛けとなり句会「やはぎ」とは疎遠になり、多忙な診療活動に没頭して現在に至っている。

さて「蝸の中」には、誠実な開業医の日々を表現している共感出来る句が多く、一枚一枚の奥様の描いた挿絵も素敵である。例えば「蝸のなか山旅の終りけり」「ひと日また仕事重ねて鯛雲」等は秀句であると考えられる。医師の活動と役割も多くの制限が加えられて来ているが、現在も日々私は患者と共に生活している。残る日々を大事にしたいと考えている。時々、読み返したくなる句集である。

The 25th Annual Meeting of Japanese Society of Strategies for Cancer Research and Therapy

# 第25回 日本癌病態治療研究会

## 「癌と宿主の連環を斬る」

会期 2016年6月8日(水)・9日(木)

会場 三井ガーデンホテル千葉

演題募集: 2016年1月4日(月)~1月31日(日)

<当議世話人> 千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学 松原 久裕

<主催事務局> 千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学 宮内 英聡  
〒260-8670 千葉県千葉市中央区本町1-8-1  
TEL.: 043-226-2110 / FAX: 043-226-2113

<運営準備室> 日本コンベンションサービス株式会社  
〒100-0013 東京都千代田区有明1-4-2 大同生命霞が関ビル14階  
TEL.: 03-3508-1214 / FAX: 03-3508-1302  
E-mail: jsct25@convention.co.jp

<研究会ホームページ>  
URL: <http://www2.convention.co.jp/jsct25/>







## みのはな同窓会員の千葉大学医学部附属病院受診に際してのご案内

本院では会員の皆様が本院を受診される際の利便性を高めるために、下記のとおり受診に関する手順を定めました。

### 記

#### 受診受付優遇対象者

- ・同窓会の会員本人、会員の配偶者及び会員の2親等以内の親族

#### 受診手順 (図を参照)

##### 【初診時】

1. 千葉大学病院総務課へ連絡 (043-226-2221)  
(受診診療科と調整のうえ、折り返し、来院日・来院時間をご連絡します。)
2. 千葉大病院 (新外来棟1階総合案内) へご来院  
(事務部において、受診手続き、お会計を行います。)

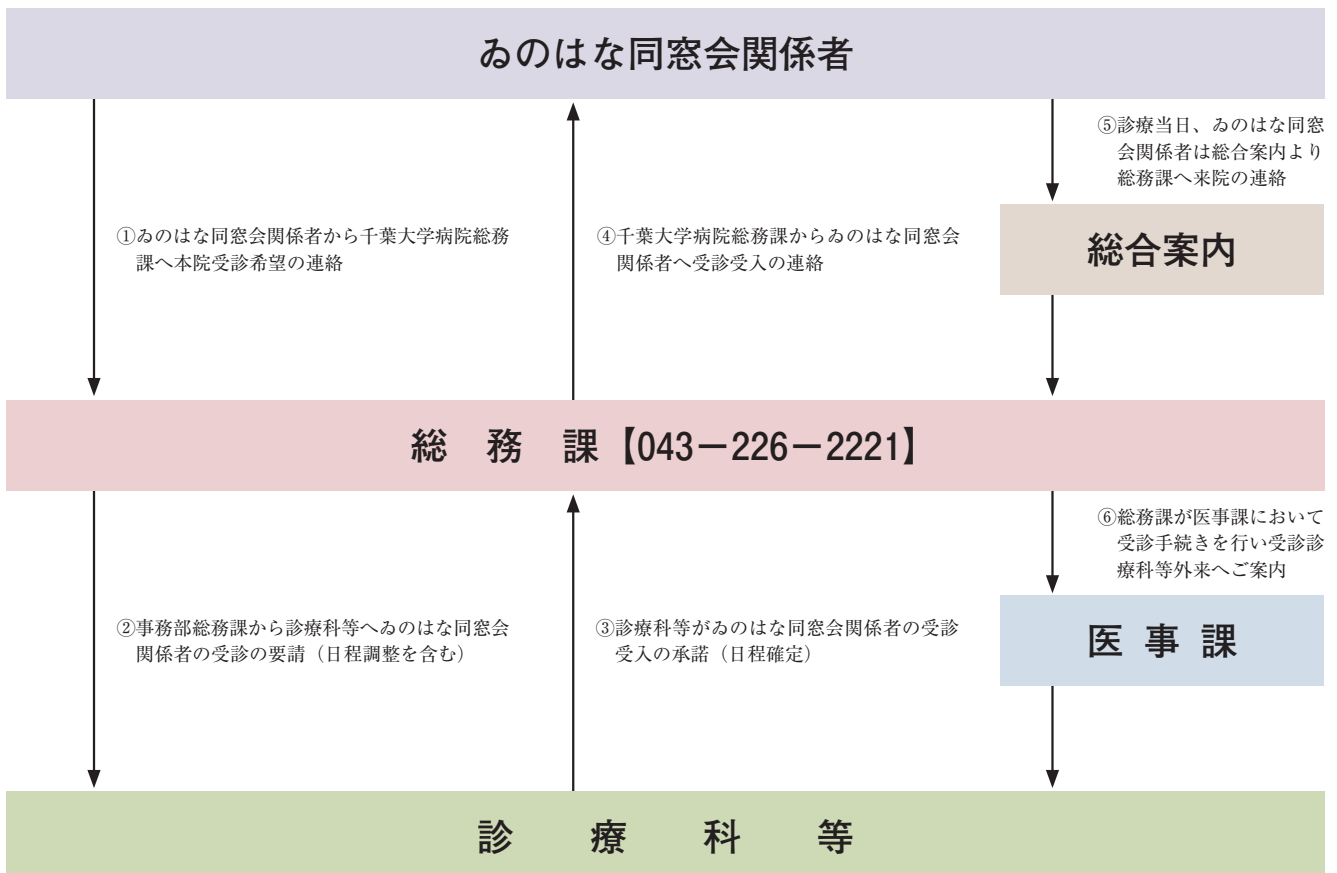
##### 【再診時】 受診診療科との直接の予約となります。

#### 受診方法

- ・本院を受診する他の患者と同様に紹介状を必要とします。無い場合の受診は、保険外併用療養費制度に基づく初診に係る特別料金 (5,400円) を徴収させていただきます。

※ 2親等以内の親族とは、父母、義父母、子、配偶者の子、兄妹姉妹、兄弟姉妹・配偶者、義兄弟姉妹、祖父母、義祖父母、孫をいう。

## 受診の手順





# オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



千葉大学あのはな同窓会会則第3章目的には、「医道の昂揚に努めること」との記載があります。その目的にかなうべく、インターネット上のオンライン会報（ヤフーやグーグルなどでこの用語で検索するとトップ項目で閲覧可能です）では、学術活動の意義を問い直す番組を掲載しております。また、関連する新聞記事について、1~2年間分をまとめて生涯学習講座欄に大学・医療の姿として紹介しておりますので、ご活用ください。一方福祉・文化関連情報欄を新設しました。掲載すべき情報がありましたら、あのはな同窓会本部内事務局オンライン会報担当者までお知らせください。オンライン会報が、会員の様々なニーズに応えられるように、皆様のご協力をお願い致します。

## オンライン会報 総合目次

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。  
 Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。  
 >>ダウンロード >>インストール方法  
 ただし「\* Mac/スマホ対応\*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

- ・ 病院紹介
- ・ 求人・求職
- ・ 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・ 生涯学習講座
- ・ インタビュー
- ・ 国際交流
- ・ 都道府県医師対策
- ・ オンライン書庫
- ・ 話題
- ・ 同窓会
- ・ クラス会・他大学等
- ・ キャンパス便り
- ・ 福祉関連情報
- ・ 「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・ 協賛企業からのお知らせ

## 学術活動に関する番組

### ■インタビュー ▶インタビューの一覧はこちら



**NEW**  
**病理診断の信頼獲得とその進歩のために**  
 近藤福雄（帝京大学医学部附属病院 病理診断科長・病院病理部長）  
 聞き手  
 鈴木信夫（あのはな同窓会副会長）



**今伝えたい大学人の心**  
 鈴木守（群馬大学顧問・名誉教授）  
 聞き手  
 鈴木信夫（あのはな同窓会副会長）

- ・ 病理診断には重複する領域がある [▶ 映像を見る](#)
- ・ 診断基準は進歩している [▶ 映像を見る](#)
- ・ 「論より証拠」で成熟させる理論 [▶ 映像を見る](#)
- ・ 自らの学説は責任を持って検証し進歩させる [▶ 映像を見る](#)

- ・ 大学における教養教育の本質 [▶ 映像を見る](#)
  - ・ 医学部における専門教育 [▶ 映像を見る](#)
  - ・ 医学における危機管理 [▶ 映像を見る](#)
- [2015.8.21掲載]  
 \* Mac/スマホ対応\*

[2015.11.12掲載]  
 \* Mac/スマホ対応\*

### ■生涯学習講座

#### 第91回千葉医学会学術大会 平成27年7月30日



特別講演  
 一生化学者の歩み  
 ー実験研究の指針を求めてー  
 橘正道（千葉大学名誉教授）

- ・ 前編 [▶ 映像を見る](#)
- ・ 後編 [▶ 映像を見る](#)

[2015.9.15掲載]  
 \* Mac/スマホ対応\*

**NEW**  
**大学・医療の姿（新聞記事より）**



[▶ 記事を読む](#)

記事項目を31面に掲載

[2015.11.19掲載]



■ 福祉関連情報 ▶ 福祉関連情報の一覧はこちら

● リゾート情報



棒道からの甲斐駒と北岳

関連情報を見る

(有)八ヶ岳信玄原土地

▶ WEBサイト

[2015.8.21掲載]

\* Mac/ スマホ対応\*

● 文化活動情報



NEW

千葉に咲く文化の華

・作家略歴 (PDF)

▶ 記事を読む

・収蔵作品の写真 (PDF)

▶ 記事を読む

・ごあいさつ (PDF)

▶ 記事を読む

[2015.12.4掲載]



NEW

平成27年

第40回みのはな美術展

平成27年10月5日～11日

於銀座ギャラリー向日葵

[2015.11.17掲載]

\* Mac/ スマホ対応\*

● 同窓会プラン情報

NEW

海浜幕張駅前に在る ホテルザ・マンハッタンよりのお知らせ



全景

▶ WEBサイト

・館内一室からの遠望

▶ 映像を見る

・ホテル紹介インタビュー

▶ 映像を見る

・インタビュー内容

▶ 記事を読む

・ホテル配布パンフレット類 (PDF)

▶ 記事を読む

[2015.12.4掲載]

\* Mac/ スマホ対応\*



チャペル

・割引ウェディングプラン

▶ 記事を読む



プリマベーラ

・割引パーティプラン

▶ 記事を読む

— 大学・医療の姿 (～ 2015.10.31) —

下記の項目について掲載してあります。

- ・教育現場
- ・入試
- ・製薬
- ・医療事故
- ・危機管理 (群馬大)
- ・倫理
- ・研修
- ・研究
- ・文科省

おしらせ

同窓会員が千葉県内で経営する病院・医院・診療所については、オンライン会報および千葉日報との両メディアでの連動による紹介が可能です。詳細につきましては、同窓会事務局までお問合せ下さい。

Tel : 043-202-3750



お く や み

- 幡野 永田(専24)
- 溝手 専一(専24)
- 山口 寅三(専24)
- 山本 惇(専24)
- 越後貫道子(専25)
- 島崎 大弥(東京医専・昭26)
- 遠山 寅雄(専27)
- 荒木 晃(昭29)
- 永瀬 敏行(昭29)
- 鈴木 健司(昭31)
- 辻 輝蔵(昭31)
- 長瀬 信一(日本医大・昭32)
- 沖津啓一郎(昭36)
- 山口 國行(昭37)
- 原 輝彦(昭39)
- 矢島 義忠(昭39)
- 古沢 明(昭40)
- 足立 倫康(昭42)
- 伊東 範行(昭44)
- 細井 湧一(昭44)
- 坂口 明(昭48)
- 安良岡 勇(昭53)
- 山本 光博(平元)
- 浜名 孝平(鶴見大・平9)

明けましておめでとうございます。のりな同窓会会員の皆様におかれましては、気持ちも新たに新年をお迎えのことと思えます。

創立135周年記念事業である「新のりな同窓会館」の設立をはじめ、これまで、同窓会のために大変な御尽力をされてこられました伊藤晴夫前会長から、この度、済陽高穂先生がのりな同窓会長をひきつがれました。済陽先生は「世界がスタンダード」を進むべき道に掲げ、新たな同窓会の活性化、発展の展望を述べられています。また、各種の叙勲や受賞を受けられた先生方には誠にめでとうございました。さらに、各大学の講座責任者等に就任されました同窓の先生方が、更なる活動を開始され

るにあたり、抱負を述べられておられます。また、各地区ののりな会、各学年のクラス会では多くの先生方が楽しく活躍されておられる御様子が報じられ、同窓の一人として、喜びを禁じえません。この第171号では、多くの先生方による御投稿があり大変充実したものになっているものと思っております。中でも、国際交流・留学生報告では、多くの海外での交流が行われている様子が伺われます。ドイツのシャリテ医科大学や米国のトーマスジェファソン、イリノイ大学での学生の臨床実習留学の報告は、将来、グローバルな視野に立つ医療人となるような、新たな教育への取り組みであり、興味深く拝読いたしました。若者たちが多種多様な連携教育の重要性を理

解し、積極的に学ぼうとしている姿勢を感じました。また、研修医だより、関東研究医養成コンソーシアム報告、亥鼻祭実行委員長報告、課外活動では、救急サークルCITATでの講習会や勉強会、ヨット部、ラグビー部などでの、若い人たちのいきいきとした様子が報告され、頼もしく感じられました。総じて、今回の会報は若い人たちのみならず、多くの先輩方の若々しい力が感じられる会報となったと思います。

千葉を離れて研修をしている卒業生が大学に戻ってこれられて、臨床あるいは研究をしたいと思うような同窓会報を紹介できませう、今後とも皆様のご投稿・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

横須賀收(昭50)

千葉医学雑誌91巻5号 2015年10月

原著  
デート中の暴力(デートDV)を防止するためのe-ラーニング・コンテンツの開発及びその有効性に関する予備的研究 杉本元子 清水栄司

話題  
大学病院に求められている“良い医療とは何か”という問いに答え得る手術をして頂いて 金子敏郎

海外だより  
ポール・ブルッス病院 Centre Hépatobiliaire 留学記 細川 勇

学会  
第1304回千葉医学会例会・整形外科例会  
第1308回千葉医学会例会・第29回千葉集中治療研究会  
第1310回千葉医学会例会・第32回千葉精神科集談会

雑報  
がん臨床におけるインフォームド・コンセントの法的側面 関根郁夫 秋月伸哉 石井 猛 永瀬浩喜 山口武人

OAP要旨  
アレンドロネートが著効したSAPHO症候群の1例 鈴木崇根 國吉一樹 松浦佑介 柿崎 潤 助川浩士 小川泰史 小林倫子 安部 玲 木内 均 上野啓介 赤坂朋代 金塚 彩 高橋和久 松原久裕

編集後記  
CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper  
Case Report  
Successful treatment of SAPHO syndrome using alendronate - a case report  
Takane Suzuki, Kazuki Kuniyoshi, Yuusuke Matsuura, Jun Kakizaki Kouji Sukegawa, Yasuhumi Ogawa, Tomoko Kobayashi, Rei Abe Hitoshi Kiuchi, Keisuke Ueno, Tomoyo Akasaka Aya Kanazuka and Kazuhisa Takahashi

千葉医学雑誌91巻6号 2015年12月

症例  
術前診断しえた左傍十二指腸ヘルニアの1例 和城光庸 宮崎 勝  
近位手根切除術後における橈骨手根関節の応力変化 ~CT/有限要素解析による検討~ 芝山昌貴 松浦佑介 鈴木崇根 國吉一樹 高橋和久

千葉医学会奨励賞  
Th17細胞分化におけるSox5の役割 田中 繁

学会  
第1294回千葉医学会例会・平成26年度細胞治療内科学会例会  
第1298回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学(旧第一内科)例会  
第1311回千葉医学会例会・第32回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書  
平成26年度猪之鼻学会研究補助金による研究報告書

OAP要旨  
急性脊髄損傷に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いた神経保護療法 : 基礎から臨床試験まで

國府田正雄 古矢丈雄 稲田大悟 神谷光史郎 大田光俊 牧 聡 飯島 靖 斎藤淳哉 高橋和久 山崎正志 下条直樹

編集後記  
CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper  
The Chiba Medical Society Award (2015)  
Granulocyte colony-stimulating factor-mediated neuroprotective therapy for acute spinal cord injury: From bench to bedside  
Masao Koda, Takeo Furuya, Taigo Inada, Koshiro Kamiya Mitsutoshi Ota, Satoshi Maki, Yasushi Ijima, Junya Saito Kazuhisa Takahashi and Masashi Yamazaki  
第八回(2016年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について  
第9回 ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ  
91巻総目次・索引